「人口減少対策」に関する政策提言書

－「帰ってきたくなるまち気仙沼」の実現に向けて－

令和６年２月

気仙沼市議会　人口減少対策調査特別委員会

◆目　次

１.はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２.人口減少対策の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

３.人口減少対策調査特別委員会の活動経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

４.「帰ってきたくなるまち気仙沼」を実現するための提言
提言１・・８
政策をステージに分けて整理することで漏れや重複を防ぐ

提言２・・８
「ふるさとを大切にしたい」と思われるまちに

提言３・・９
「船出」の後もつながり続ける仕組みづくり

提言４・・10
「ふるさとに貢献したい」という思いを形に

提言５・・12
「帰りたい」と思われる職場と子育て環境づくり

提言６・・13
「帰ってきてから」の暮らしに選択肢を

提言７・・14
「市民が主役のまちづくり」へ情報と危機感の共有を

〇添付資料
別紙１　委員ワークショップ実施報告

別紙２　人口減少対策に関する講演会実施報告及びアンケート集計結果

別紙３　「団体等との意見交換」実施報告

別紙４　Ｕターン等に関するアンケート調査報告

別紙５　Ｕターン向けの政策事例等

別紙６　提言のまとめに向けた施策リスト

１. はじめに

平成の大合併により，平成 17 年に気仙沼市と唐桑町の合併による「新気仙沼市」，そして平成 21 年の本吉町の編入合併を経て，人口約 76,000 人の現気仙沼市が誕生した。合併以前から緩やかな人口減少傾向はみられたが，平成 23 年の東日本大震災による壊滅的な被害を受けた事により人口流出が進み，懸命の復興に努めたものの，全国的な急激な少子化の流れにもより，人口減少には歯止めのかからない状況である。すでに本市においては 60,000 人を割り込む人口となっており，今後さらに減少する見込みである。

そのような状況を憂い，本年度，行政においては 100 人規模の市民を集めての「けせんぬま未来人口会議」を立ち上げ，研修会やワークショップを通じて対策の集約を図っている。また気仙沼商工会議所においても，「人口減少対策委員会」を立ち上げ検討を進め，市へ提言をするなど，官民を挙げてこの問題に取り組んでいる。市議会においても２年前の改選後すぐに「人口減少対策調査特別委員会」を立ち上げ，議会の立場からの提言に向けて，調査，研究を進めてきたところである。

人口減少問題に対する課題は多岐にわたっている。行政における対策は，大勢の市民の意見を吸い上げまとめるため，広範囲にならざるを得ない。また，商工会議所による提言は，その性格により経済活動体をベースとしての状況分析，その改善が主となっている。いずれも重要な事であるが，議会としての立場からの提言を考えた場合，総花的ではなくテーマを絞って調査をし，深く掘り下げた提言を行うべきとの結論に至った。まず最初に取り上げたのは，すでに行われている，人口を増やすための移住対策（Ｉターン，Ｊターン）や少子化対策ではなく，施策の効果は高いものの今まで注目が薄かったＵターン対策である。気仙沼に縁のある人々を呼び戻す「帰ってきたくなるまち気仙沼」をテーマに掲げ，そのための調査，研究，検討を行った。対策を３つのステージに分け，ふるさとを巣立つ前，離れてから，そして帰ってきてからのそれぞれにおいて政策提言を行うこととした。

特に重要視したのは，調査研究をとおして挙がることの多かった「絆」である。東日本大震災の経験により，我々はたくさんの絆を実感し，助けられてきた。ふるさとに戻った後の対策は，行政においてたくさんの施策がなされている。しかし人を引き寄せるためには，営利ばかりではなく，ふるさと（地域）との絆，人との絆が大切なのではないだろうか。今回の提言は，その「絆」を築くことに主眼を置き，そのための施策を盛り込んでいる。幼いころから故郷への愛着と誇りを育むための学びの場や経験の提供，巣立った後も繋がりを維持するための試み，そして戻ってきやすくするための環境づくり等である。さらに，出身者を始め気仙沼に思いを寄せる人々との繋がりを構築，維持することも非常に重要な事である。いずれも，調査過程における分析や，市民や移住者とのワークショップにより問題提起がなされ，それを受けて対策として検討を進めたものである。この提言が，本市の人口減少対策の一助になることを切に願うものである。

なお本特別委員会としては，常に調査を進め，次なるテーマを定め，これからも気仙沼市のために，市民のために有益な提言をしていく方針である。

２. 人口減少対策の現状と課題

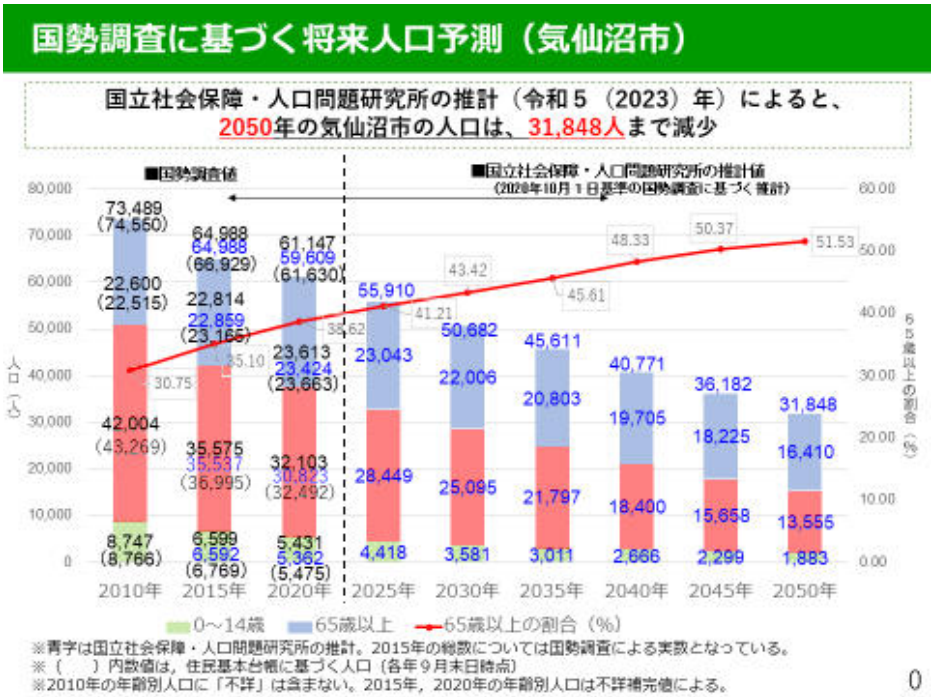
（１）現状分析

本市における国勢調査に基づく人口は，震災前の平成 22 年で 73,489 人（高齢化率 30.8%）だったが，令和２年には 61,147 人（同 38.6%）まで減少した。震災の影響もあり，この 10 年間の増減率は△17.3%と県内 14 市で最下位となった。さらに国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると，令和 32 年には 31,848 人（同 51.5%）と予測されている。なお，住民基本台帳に基づく令和５年 12 月末の人口は 57,652 人であった。

減少の要因は，少子高齢化によって死亡数が出生数を上回る「自然減」が深刻化していること，転出者が転入者を上回る「社会減」も高校卒業とともに進学や就職で市外に転出した若者が帰ってこないことで改善されないことにある。若者の流出は人口構造にも影響し，15～65 歳の生産年齢人口は令和２年で人口の 52.5%を占める 32,103 人だが，その 30 年後には 13,555 人まで激減すると予測されている。

特に少子化は深刻で，年間出生数（届出ベース）は令和５年で 205 人と過去最少を記録した。令和４年の合計特殊出生率は 1.07 で，昭和 45 年の 2.29 の半分以下となった。出生率低下の要因の一つは未婚率の上昇で，生涯未婚率（50 歳時の未婚率）は昭和 55 年で男性 1.9%，女性 3.4%だったが，令和２年には男性 31.4%，女性 17.0%となった。

人口減少と人口構造の急激な変化は，保育所や学校をはじめとする公共施設の再編をはじめ，労働者不足や内需減少の産業問題など，広い分野に影響を及ぼすことが心配されている。



※資料提供：気仙沼市 震災復興・企画部 震災復興・企画課

（２）課題整理

本市は人口減少を緩和・改善するため，出会い・結婚への支援，少子化対策，移住・定住促進，雇用・医療など，様々な取り組みを展開している。震災後はボランティアを契機に移住した若者にも後押しされて移住施策が本格化し，移住・定住支援センターを中心に着実な成果を上げている。少子化対策にも力を入れ，子ども医療費を 18 歳まで無料化したのに続き，好調なふるさと納税寄附金を活用した人口減少対策パッケージでは，小中学校の給食費無償化，第二子以降の保育料無償化なども実現した。

地方創生を旗頭にした人口減少対策は震災後に始まったため，各事業の検証や整理は十分とはいえない。行政，民間ともに予算もマンパワーも限られているため，「選択と集中」が求められている。また，少子化だけでなく高齢化社会への対応も人口減少に向き合った重要な政策である。

本特別委員会では，進学や就職のために市外へ流出した気仙沼出身者にUターンしてもらうことが様々な課題解決につながると考え，さらに出身者のみならず，仕事や観光，ボランティアなどで関わりのある人たちも対象に，「帰ってきたくなるまち気仙沼」を目指すこととした。その政策提言内容の取りまとめに向け，調査や委員間議論を通して下記の通り課題を抽出した。

【まちの魅力と発信】

・いろいろ取り組んでいるが分かりにくい
・市民も応援してもらうための情報発信が足りない
・閉塞感を打破する明るい情報がほしい
・ふるさと納税の活用
・クルーカードは市民向けにも活用できるのか
・気仙沼ファンクラブが生かし切れていない
・地元が気付かない魅力があり，転出する 18 歳までに魅力を感じてほしい

【住環境・仕事・コミュニティ】

・住居費が高い。低収入でも幸福度の高い暮らしを実現できるか
・職業選択肢と収入が大きな課題
・家を継ぐ長子以外は帰りにくくなっている
・実家暮らしを前提としたUターンの限界。不安な家探し
・多様な価値観に対応した選択肢の提供
・子育てしやすい環境である一方，閉鎖的なコミュニティへの不満と不安
・いま生活している大人が楽しく過ごしていること
・少子化だけでなく高齢化の対策も必要
・保育所や学校の再編による子育て環境の変化
・暮らしと仕事が近いことのメリットがある
・起業支援が足りない

３．人口減少対策調査特別委員会の活動経過

（１）経過の概要

本特別委員会では，人口減少に係る課題や対策等について整理するため，昨年１月に委員間でワークショップを行ない，調査におけるテーマの絞り込みを図ることとした。市の取組はＩターン向けのものが多く，Ｕターン施策が少ないことに着目し，調査テーマを「帰ってきたくなるまち気仙沼」とした。

昨年６月には，本市が宝島社の雑誌『田舎暮らしの本』で発表している「2023 年版住みたい田舎ベストランキング」で東北エリア「総合部門」２位を獲得したこと等を受け，当該専門誌の柳編集長を講師に迎え，講演会を開催し，併せて人口減少対策に関するアンケートを実施した。講演会では，若者が「故郷＝帰って来たくなるまち」になるには，「暮らしやすさ」だけでは十分ではなく，「大切な人がいる」「自分の居場所がある」「育ててもらった」と感じられることが必要であるとのことであった。

また，８月には，ワールドカフェ方式による本市在住のＵターン者等との意見交換，８月から９月にかけて，市の公式ＬＩＮＥを活用し，若い世代等を対象にＵターン等に関するアンケート調査を実施した。

これらの取組を通して分かったことは，職業選択肢と収入が大きな課題であることや実家暮らしを前提としたＵターンの限界，不安な家探し，子育てしやすい環境整備などである。また，今生活している大人が楽しく過ごしていることや 18 歳までに魅力を感じること，「大切な人がいる」，「居場所がある」と思えることが非常に大事であると捉え，ふるさととの繋がりを大切にするため，「気仙沼を巣立つ前に」，「気仙沼を離れてから」，「気仙沼に帰ってきてから」の三つのステージに分け，高校卒業まで気仙沼の名所をまわってもらうためのスタンプラリーや仙台へ気仙沼コミュニティの拠点となるシェアハウス開設，空き家を活用したシェアハウス補助金の創設などの政策を提言することとした。

（２）活動内容

日　付		活　動	内　容
令和４年	６月２７日	特別委員会設置（第 126 回定例会）	付託事件：人口減少に関する課題の分析，総合的・横断的な対策の調査
		特別委員会（第１回）	正副委員長の互選
	７月１１日	特別委員会（第２回）	本市の現状を把握するため，当局からの説明を受けることとした
	８月３日	特別委員会（第３回）	当局から本市における人口減少対策の現状と課題等について説明を受け，質疑等を行った
	９月２１日	特別委員会（第４回）	本市が所有している人口減少のデータの分析を行うこととした
	１１月１１日	特別委員会（第５回）	当局から本市における人口動態等の状況について，詳細なデータの説明を受け，意見交換を行った

	１１月２１日	特別委員会（第６回）	委員間でワークショップを行ない，課題や対策等について整理し，今後の調査テーマを絞り込むこととした
	１２月１５日	特別委員会（第７回）	①人口減少対策調査特別委員会報告書【概要版】について ②委員ワークショップの開催について
令和５年	１月１８日	特別委員会（第８回）	・委員ワークショップ テーマ：「人口減少に係る課題・対策等について」 １ 内 容 人口減少に係る課題・対策等について，問題意識の共有や課題の洗い出し及び要因の分析，対応方法など，今後の調査における検討テーマの絞り込みを図るため，委員間で２班に分かれワークショップにより話し合いを行った ２ ワークショップの意見等 **※委員ワークショップ実施報告 別紙１**
	２月２１日	特別委員会（第９回）	委員ワークショップの実施報告と今後の特別委員会における調査検討テーマ（案）について協議を行った
	３月２日	特別委員会（第 10 回）	今後の進め方及び中間報告について協議を行った調査・検討メインテーマを「帰って来たくなるまち気仙沼」とした
	４月１８日	特別委員会（第 11 回）	当局から「けせんぬま未来人口会議」について，説明を受け，質疑等を行った 人口減少対策に関する講演会（案）について協議を行った。本市が，宝島社の雑誌『田舎暮らしの本』で発表している「2023 年版住みたい田舎ベストランキング」で東北エリア「総合部門」２位を獲得したこと等を受け，当該専門誌の編集長 柳 順一氏を講師に迎え，講演会を開催することを確認した
	５月２９日	特別委員会（第 12 回）	当局から「転入・転出者アンケート集計結果」について説明を受け，質疑等を行った 人口減少対策に関する講演会について，内容等の協議を行った
	６月３日	人口減少対策に関する講演会	演 題：「帰って来たくなるまちづくり」 講 師：株式会社 宝島社 『田舎暮らしの本』 編集長 柳 順一 氏 **※講演会実施報告及びアンケート集計結果 別紙２**

	６月２１日	特別委員会（第 13 回）	人口減少対策に関する講演会実施報告と今後の活動について協議を行った
	７月１１日	特別委員会（第 14 回）	・団体等との意見交換及びＵターン等に関するアンケート調査について協議を行った 気仙沼市移住・定住支援センターＭＩＮＡＴＯに協力をいただき，本市在住のＵターン者及びＭＩＮＡＴＯスタッフ等と本特別委員会委員との意見交換を行うこととした 市の公式ＬＩＮＥを活用し，若い世代等を対象に，本市へのＵターン等に関するアンケート調査を実施することとした
	８月３日	特別委員会（第 15 回）	団体等との意見交換 「帰って来たくなるまち気仙沼」を考えるワールドカフェ １ 内 容 気仙沼市移住・定住支援センターＭＩＮＡＴＯに協力をいただき，Ｕターンに関する現状や課題等を共有し，今後の人口減少対策の参考とするため，ワールドカフェ方式により，本市在住のＵターン者及びＭＩＮＡＴＯスタッフとの意見交換を行った ２ ワールドカフェの意見等 **※「団体等との意見交換」実施報告 別紙３**
	８月２３日～９月１３日	Ｕターン等に関するアンケート調査	今後の人口減少対策の参考とするため，市の公式ＬＩＮＥを活用し，若い世代等を対象に，本市へのＵターン等に関するアンケート調査を実施 １ 調査方法 市公式ＬＩＮＥによるアンケート調査 ２ 調査期間 令和５年８月２３日～９月１３日 ３ 調査対象 市公式ＬＩＮＥに登録している１０代～４０代の方 （８月２１日時点 1,453 人 ※生年登録人数） **※Ｕターン等に関するアンケート調査報告 別紙４**
	９月１９日	特別委員会（第 16 回）	団体等との意見交換及びＵターン等に関するアンケート調査の報告と政策提言に向けた今後の取り組みについて協議を行った 政策提言に関する骨格づくり及び意見集約，調整等を行うため，特別委員会内に６名の委員で構成する「政策提言に関するプロジェクトチーム」を設置した

	１０月１１日	プロジェクトチーム会議（第１回）	チームリーダー及びチームサブリーダーの互選 これまで特別委員会で実施してきた団体等との意見交換やUターン等に関するアンケート調査等を踏まえ，政策提言に関する骨格づくりについて協議を行った
	１０月２７日	プロジェクトチーム会議（第２回）	「帰って来たくなるまち気仙沼」をテーマに，Uターンの施策に絞り，提言項目（案）について協議を行った
	１１月１０日	特別委員会（第 17 回）	政策提言に関するプロジェクトチーム会議における項目整理及び施策（案）並びに今後の進め方について協議を行った
	１１月１６日	プロジェクトチーム会議（第３回）	１１月１０日の特別委員会における意見等及び今後のプロジェクトチームの進め方について協議を行った
	１１月２４日	プロジェクトチーム会議（第４回）	提言項目を整理し，提言書（案）として２つの案をまとめ，その中から1 つの案に絞り，具体的な政策案等について協議を行った
	１２月１日	プロジェクトチーム会議（第５回）	提言書（案）を基に，具体的な政策案等について当局との意見調整を行った 意見調整を踏まえ,提言書（案）の修正を行った 当局出席者： 震災復興・企画部長，人口減少対策統括官 外５名
	１２月１８日	特別委員会（第 18 回）	政策提言に関するプロジェクトチーム会議における提言書（案）及び今後のスケジュール（案）について協議を行った
	１２月２５日	全員協議会	政策提言書（案）【中間報告】について，全員協議会で説明し，協議を行った
令和６年	１月９日	プロジェクトチーム会議（第６回）	提言書（案）の最終調整について協議を行った
	１月１８日	プロジェクトチーム会議（第７回）	提言書（案）の最終調整について協議を行った
	２月１日	特別委員会（第 19 回）	提言書（案）の最終確認及び今後の進め方等について協議を行った
	２月９日	全員協議会	「人口減少対策」に関する政策提言書（最終案）について，全員協議会で説明し，協議を行った

４．「帰ってきたくなるまち気仙沼」を実現するための提言

■提言1　政策をステージに分けて整理することで漏れや重複を防ぐ

長期に多岐にわたる人口減少対策について，漏れや重複を防ぐため，人生のステージに分けて分類・管理することが効果的である。本特別委員会では，中学や高校を卒業して市外に転出するまでの時期を「気仙沼を巣立つ前に」，その後を「気仙沼を離れてから」，さらに「気仙沼に帰ってきてから」の三つのステージに分けて提言する政策を整理した。

特に U ターンに関する政策は，この三つのステージに一貫して取り組むことで成果が期待できるため，市としても同様の分類を行って政策の進捗や成果を管理していくことを提言する。

三つのステージ	
気仙沼を巣立つ前に	進学や就職のために市外へ転出する前に気仙沼の魅力をしっかり伝える
気仙沼を離れてから	気仙沼とのつながりを保ち，ふるさとへ貢献する仕組みを構築する
気仙沼に帰ってきてから	帰ってきて良かったと思われるように，仕事，暮らしの環境を充実させる

■提言2　「ふるさとを大切にしたい」と思われるまちに

「気仙沼に帰ってきたい」と思ってもらう前に，「ふるさとを大切にしたい」という思いを育むことが大切である。中・高校生の間に気仙沼の魅力を知らず，そのまま進学や就職で市外に転出することが課題の一つだったが，震災後に増えた若者の移住者が外からの視点で気仙沼の魅力を再発見してくれている。その魅力を転出前に伝えるための取り組みを強化・継続していくことが重要であることから，次の項目を提言する。

具体的な政策案	イ）自然，文化，歴史にふれる機会を新たな視点で増やす	子ども時代にワクワクする体験が，ふるさとを大切にする思いにつながるため，その機会創出に力を入れる。祭りや伝統芸能，趣味，スポーツなどを通して身近な大人とふれあう機会も，将来的な人口減少対策につながるという新たな視点を持って，後継者対策や活動支援を強化する
	ロ）子どもの居場所支援の充実	生きづらさを抱える子どもを含め，多くの子どもが安心した豊かな子ども時代を過ごせるよう，児童館や公民館，子どもの遊び場，フリースクール等の子どもの居場所機能，子ども理解や子どもの声を聴く機会の拡充を図る

	ハ）高校卒業まで気仙沼の名所をまわってもらうためのスタンプラリー	安波山，巨釜半造，大理石海岸，亀山，鹿折金山，八瀬川，徳仙丈，震災遺構，大谷海水浴場など，気仙沼の名所を高校卒業までに訪れてもらうため，スタンプラリーを通年開催する。全てクリアした人には特典があるような内容にする。一般市民向けも開催し，大人にも気仙沼の魅力を伝える

■提言3 「船出」の後もつながり続ける仕組みづくり

「ふるさとを大切にしたい」という思いを持ち続けてもらうために，気仙沼と出身者がつながる仕組みが大切になる。出身者は家族や友人，同級生など，様々なつながりに加えて，地域や行政ともつながることで，ふるさとの情報，移住定住の情報が伝わり，「ふるさとに貢献したい」「いつか帰ってきたい」という思いを後押しすることができる。提言する政策は次の通り。

具体的な政策案	イ）アプリや SNS を活用したつながる仕組みづくり	気仙沼市公式 LINE，クルーカード等で情報提供する仕組みを強化するため，スマートフォンを持つ人が増える中学卒業のタイミングでお祝いポイント（10,000円×500 人で 500 万円）をプレゼント。正月・お盆等の帰省を推進する「おかえりポイント（期間限定）」も付与することで登録解約を防ぎ，気仙沼の最新情報，移住や就職に関する情報を直接提供する手段とする。地区別のタグ付けをすることで，よりマッチした情報を届ける。地域経済への波及効果もある。なお，クルーカードを市民向け，UIJ ターン向けの情報発信に活用するための課題についても整理する
	ロ）同級生を通してつながる仕組みづくり	成人式を担当する公民館等が，その後も同級生の幹事役とつながりを持つ仕組みをつくり，アンケートなどへの協力を依頼できるようにする。また，同級会や同窓会，歳祝いの事務などを支援し，仲間とつながり続けられるようにし，歳祝いには市から乾杯用地酒などの特産品を差し入れする。個人情報保護に注意し，成人式の際に同意を得る
	ハ）仕送りセットの送料支援	気仙沼の物産品を詰め込んだ仕送りセットを地元事業者と作り上げ，その送料を補助する。その中に市の情報を入れる
	ニ）仙台へ気仙沼コミュニティ拠点となるシェアハウス開設	仙台に出てからも繋がり続けるため，気仙沼コミュニティの拠点となる学生向けのシェアハウスを整備して，安く入居できるようにすることで，気仙沼出身の学生と保護者の経済的な負担を軽減する。シェアハウス内には入居者が，気仙沼のことを語り合う場をつくり，仙台で本市のイベントなどを行う際には積極的に手伝

		ってもらうことなどを入居条件とする。入居基準は学力だけでなく，気仙沼やまちづくりへの思いも加える。仙台にいる他の学生のコミュニティ拠点とし，気仙沼に縁がある事業所などの支援の受け皿にもする。気仙沼の企業が仙台に保有する賃貸施設のシェアハウス化など，民間に委ねる可能性についても検討する （※公設寮は平成 30 年度で廃止された登米市立仙台学寮，まちづくり参加を入居条件にしたシェアハウスは富山市の富山市民プラザの事例有）

広報とめ

登米市立仙台学寮　平成23年度入寮者募集

登米市立仙台学寮の入寮者を次のとおり募集します。

【対象者】 登米市出身の高卒者（卒業予定者）で仙台方面の大学・専門学校などに通学する、または通学する予定の学生

【募集人数】 男子４人、女子３人

※空部屋については、原則的に男性用部屋（２階）、女性用部屋（１階）での募集となりますが、男女の比率については、応募状況によって変わる場合があります。

※応募多数の場合は抽選となります。

※部屋割はくじにより決めることになりますので、部屋の指定はできません。

※入寮日は３月末～４月を予定しております。

【申込方法】 教育総務課および各地区教育事務所に備え付け（市ホームページ（教育委員会）からもダウンロード可）の入寮申込書に必要事項を記入の上、教育委員会教育総務課まで直接申し込みください。

【申込期限】 ２月28日（月）必着

【学寮所在地】 仙台市青葉区堤町一丁目５－26

施設設備：ホール・浴室２個所（男女別）・洗面所２個所・各階共同トイレ・インターネット利用可能。現在は学寮施設のほか、登米市物産館との複合施設になっています。

部屋構成：１階４室（１人部屋）・２階６室（１人部屋４室・２人部屋２室）・管理人室（１人常駐）

※築29年の施設になります。施設見学可能ですので教育総務課または仙台学寮までご連絡ください。事前に見学の上、申し込みをお願いします。

【使用料金】 学寮使用料＝15,400円（月額）

学寮管理費負担金（光熱水費）＝7,000円（月額）

※食費などは別途負担となります。

【問い合わせ】

教育委員会教育総務課　☎ 0220（34）2670

登米市立仙台学寮　☎ 022（233）3609

◀登米市物産館が併設されています。

※登米市が仙台市に開設していた学生寮（物産館に併設）は安価で人気だったが，老朽化によって平成 30 年度で廃止された。都内には各都道府県による学生会館がある。

※登米市ホームページより

■提言4 「ふるさとに貢献したい」という思いを形に

若者の回帰率が５割程度ということは，市外に６万人以上の気仙沼出身者がいるということである。その家族を加えると，たくさんの気仙沼関係者が存在しており，戻ってくることはできなくても「ふるさとに貢献したい」という思いを形にするための制度が必要であることから，次の政策を提言する。

具体的な政策案	イ） 気仙沼ファンクラブの活用拡大による関係人口増加	会員 2 万人を超えた気仙沼ファンクラブを有効活用し，気仙沼から情報提供だけでなく，気仙沼のイベントやボランティアなどに参加するとポイントがもらえる仕組みをつくる。特別感のある有料のゴールドカードを用意して，市内の公共施設が無料で利用できたり，宿泊割引に使えたりする特典や，まちづくりへの参画，限定のふるさと納税返礼品を用意するなど発展させる。出身者だけでなく，関係人口増加も期待できる。市外で開催される気仙沼会，ファンの集いも支援する （※ファンクラブは岐阜県飛騨市の「ヒダスケ」，有料化特典は山形県西川町に事例有）
	ロ） 気仙沼のイベントに参加する仕組みづくり	イベント時に東京や仙台と気仙沼を結ぶ「おかえりバスツアー」を運行し，みなとまつりや産業まつりなどを手伝ってもらう仕組みをつくる。ボランティアによるリピーターが多い「目黒のサンマ祭り」を参考に，その逆行程となる気仙沼のイベントをボランティアで手伝ってもらうことで，市民との関係構築，ふるさとへの居場所づくりへつなげる。有志などによるバス運行に補助金を交付する仕組みとして市の負担増加を避ける （※気仙沼Uターンマイプロバスの事例有）

【事例】 岐阜県飛騨市のファンクラブ

「地域の課題は資源」と考える飛騨市は，気仙沼市と同様に人口減少に悩まされていたが，課題解決のためのポイントを「地域外との交流」と整理した。ファンクラブを平成 29 年に設立し，会員が市内の宿泊施設に泊まると 2，000 円分の電子地域通貨ポイントをプレゼントし，さらにファンクラブサポートセンターで 2，000 円分の割引クーポン（市民は対象外）がもらえる。会員には名刺が無料提供され，この名刺をもらって飛騨市に訪れた人にも 1，500 円分の割引クーポンをプレゼントする取り組み。名刺がたくさん利用された会員には，飛騨市の特産品（100 枚で 1 万 5，000 円相当）が贈られる。会員は 1 万 2，500 人（地元は 1 割）を超えた。ファンの集いは飛騨市内だけでなく，都市部でも開催し，市長や職員が飛騨牛やお酒を持参して参加する。

会員の飛騨に貢献したいとの思いを受け，さまざまな困りごとに力を借りる「ヒダスケ」という仕組みも構築した。畑仕事，チラシのデザイン，イベントのお手伝いなど，市民や事業所が公募したプログラムに参加すると，電子地域通貨などがお礼にもらえる。3 年間で 251 件のプログラムに 2，694 人が参加し，これが移住のきっかけになって人もいる

※飛騨市ホームページより

■提言5 「帰りたい」と思われる職場と子育て環境づくり

気仙沼出身者や気仙沼に関わりのある人が，「帰りたい」という思いを実現するためには条件に合う仕事探し，子育て環境が大きな課題となる。行政が主体となった取り組みには限界があるため，民間事業所による人口減少対策に有効な取り組みを応援する仕組みづくり，起業支援の充実などが必要である。その際，漁船員の新規就業に大きな成果を上げている宮城県北部船主協会による良いところだけをアピールせずに，大変さも含めて伝える取り組みを市の政策にも参考にしてほしい。政策提言は次の通り。

具体的な政策案	イ） 起業補助金の周知強化とリニューアル	創造的産業復興支援事業費補助金は起業や新商品開発に成果を上げてきたが，周知や募集の期間が短く，気仙沼に戻って起業するための機会創出にはつながりにくくなっている。今後は債務負担行為を含め，応募の準備期間を十分に確保できるように改善するほか，公開審査（ビジネスコンテスト形式）によって市民も関わって応援する環境づくりを検討する
	ロ） 地域おこし協力隊のさらなる活用を	地域おこし協力隊制度によって，出身者が就職や起業の準備ができるように新規枠を用意する。後継者がいない事業所の事業継承にも活用する
	ハ） 特色のあるテレワークの場所づくり	旧小原木中学校そして旧大島中学校を活用した IT 関連事業所の誘致が進む中，気仙沼を日本一快適なテレワーク，ワーケーション環境とすることを目指した

		取り組みを進める。ハード面だけでなく，孤立を防いで技術を高め合うコミュニティづくり，市民への周知などのソフト面にも力を入れる。また，女性のライフスタイルに応じた働きやすい職場環境づくりも支援する
	ニ）副業で収入アップ	市民の所得向上のため，副業のための市民人材センターづくりを検討する。草刈り，公共施設管理など，地域課題解決や公的仕事も副業として成り立つように行政としても応援する
	ホ）多様な仕事を知ってもらう	中・高校生のみならず，大人も多様な仕事を知ってもらうため，働く大人の写真展やカレンダー作成を応援する。漁業者にスポットを当てた「漁師カレンダー」を参考に，市民憲章カレンダーの活用も含めて検討する。職業選択のためのアルバイト，気仙沼でのインターンについても市としての機会提供に努める
	へ）保育所留学と学校の魅力化	気仙沼で子育てをしたいと思ってもらえるように，保育所留学の受け入れについて検討する。保育所や幼稚園，小・中学校，学童保育施設等の魅力化についても，家族連れでの移住につながるという視点を持って予算配分する

■提言6 「帰ってきてから」の暮らしに選択肢を

多様化が進む中，実家暮らしを前提としたUターンだけでは限界がある。震災後，市民の 1 割近くが入居する公営住宅は世帯月収によって家賃や入居期限が決まるため，実家として帰って住むことが難しく，面積が限られている防災集団移転団地も若夫婦のための住居スペースを確保しにくい状況にある。賃貸住宅も生活費の問題から若者にはハードルが高く，帰りにくい住宅事情となっている。一方，若者の価値観の変化によってシェアハウスのニーズが高まっており，人情豊かな気仙沼の環境にマッチした新たな選択肢として注目されている。人口減少によって深刻さを増す空き家対策にもなることから，次の政策を提言する。

具体的な政策案	イ）空き家を活用したシェアハウス補助金の創設	空き家活用，若者の自立とコミュニティづくり，移住に有効なシェアハウスの整備を支援する。市からの補助または融資支援制度は，空き家を活用したシェアハウス整備などの条件付きとすることを検討する。その公益性を鑑み，支援内容は空き家改修支援事業補助金（上限 50 万円）より手厚くする。担当部署を明確にし，UIJ ターンのみならず，子育て中のシングルマザー，社員寮など多様なシェアハウス形態のモデル化を応援する（※出雲市に上限 700 万円のシェアハウス整備補助の事例有）

	ロ）U ターン向けのリフォーム補助	コロナ禍の経済対策で人気だったリフォーム補助について，Uターン者向けに対象を絞って復活させる。実家に帰れない人向けに，空き家改修支援事業補助金の対象を拡大する。補助額の引き上げ，取得補助（結婚新生活支援事業は上限 60 万円）も検討する。また，市がリードして空き家を改修する制度について検討し，リフォームのアイデア自体をUIJターン者，建築系学校の生徒にしてもらう。利便性を度外視した 尖ったリフォーム物件を話題性のため1件くらいつくる
	ハ）移住支援金の独自上乗せ	東京圏からの移住を対象とした支援金制度（世帯 100 万円+18 歳未満がいると 100 万円）に市独自で上乗せする。上乗せ分は空き家取得や実家リフォームなどの使途限定とし，「総額最大 300 万円」としてアピールする。東京圏外からも独自に対象とする制度を検討する（※弘前市に事例有）
	ニ）公営住宅への同居特例	公営住宅に住む家族の元へ U ターン者が同居する場合，数年間は政令月収に反映されないように特例を設ける
	ホ）気仙沼の住環境について一緒に考える	気仙沼の住環境や気仙沼らしい暮らしについて中高生が考える機会を持つ。市として家賃が高くなる理由を調査して市民と共有し，移住定住政策について市民も参画できる機会を提供する

■提言7 「市民が主役のまちづくり」へ情報と危機感の共有を

人口減少への対策に即効薬はなく，行政や一部の市民だけで解決できるものでもない。人口減少の状況と課題，対策について行政が抱え込まず，市民と共有して一緒に取り組む姿勢が求められる。また，現在暮らしている市民の生活が豊かになることこそが，移住定住政策としては最も有効であることから，次の政策を提言する。

具体的な政策案	イ）人口減少に向き合ったまちづくり	人口が 3 万人台になった場合，市民生活にどのような影響をもたらすのかシミュレーションして，市民に分かりやすく情報提供することで，危機感を共有して人口減少に向き合った対応を進める。人口減少対策に関する情報を市民と共有し，一緒に対策に取り組む
	ロ）広報に専門家を	移住定住に関する情報は市のホームページでも目立つように工夫する。市民にも口コミで広めてもらうため，分かりやすい情報発信に努める。しかし，市役所

		内での広報強化には限界があるため，任期付き職員制度などを活用した民間人登用で広報戦略に取り組む。（※西宮市の広報アドバイザー制度，神戸市の副業人材に事例有）
	ハ）おかえりの歓迎ムードづくり	NHK 朝ドラ「おかえりモネ」の考え方を基礎に，出身者のみならず，観光客などの関係人口に対して，まち全体で「おかえりムード」を創出する
	ニ）全ての世代にとって暮らしやすいまちを目指す	暮らしやすいまちづくりに特化し，市民からのアイデアを公募（予算100万円）する。気仙沼暮らしや仕事を楽しむ大人との接点づくりのため，子ども向けのぬま塾（大人が熱く語ることにふれる），公園の魅力向上，まちにアートがある環境づくり，まち大学やぬま大によるコミュニティづくりの支援，異業種交流の場（若者版のいきいき学園）と機会づくり，産婦人科医や小児科医の確保などによる産み育てられる医療体制も強化したい。奨学金返済補助制度の対象拡大，児童手当の独自加算，保育料の完全無償化も検討する。一方で，人口減少対策に没頭することにより，気仙沼の大きな魅力であるスローな暮らしが損なわれないように注意したい。メリハリをつけた事業展開のためには「選択と集中」が必要であり，各事業には期限を設定して成果を検証することとする

◎人口減少対策調査特別委員会

委員長	千葉　慶人		
副委員長	三浦　友幸		
委　員	遠藤　秀和	委　員	今川　　悟
委　員	白川　雄二	委　員	及川　善賢
委　員	熊谷　雅裕	委　員	佐藤　健治
委　員	菊田　　篤	委　員	秋山善治郎
委　員	熊谷　伸一	委　員	三浦　由喜

○政策提言に関するプロジェクトチーム

リーダー	菊田　　篤		
サブリーダー	白川　雄二		
委　員	遠藤　秀和	委　員	今川　　悟
委　員	千葉　慶人	委　員	三浦　友幸
（特別委員会委員長）		（特別委員会副委員長）	

●添付資料

別紙１　委員ワークショップ実施報告

別紙２　人口減少対策に関する講演会実施報告及び
　　アンケート集計結果

別紙３　「団体等との意見交換」実施報告

別紙４　Ｕターン等に関するアンケート調査報告

別紙５　Ｕターン向けの政策事例等

別紙６　提言のまとめに向けた施策リスト

別紙１

人口減少対策調査特別委員会 委員ワークショップ実施報告

日 時：令和５年１月18日（水） 午前９時30分
場 所：ワン・テン庁舎 大ホール
テーマ：「人口減少に係る課題・対策等について」

１ 内 容

人口減少に係る課題・対策等について，問題意識の共有や課題の洗い出し及び要因の分析，対応方法など，今後の調査における検討テーマの絞り込みを図るため，委員間で2班に分かれワークショップにより話し合いを行った。

２ ワークショップの意見等

◆第１班 6名

リーダー（進行役）：佐藤 健治委員	発表者：遠藤 秀和委員
千葉 慶人委員長　今川　悟委員　熊谷 雅裕委員　三浦 由喜委員	

①人口減少に係る課題
【出生】 ・出生率の低下 1.02 ・出生数の激減
【未婚】 ・未婚と晩婚化 ・適齢女性の減少 ・婚姻率の低下（未婚率の増加） ・核家強化（世帯分離） ・結婚・出産した方が有利になる政策の不足 ・親の孤立 ・未婚率の増加 ・若者がいない（特に女性） ・未婚率の問題 ・関われない社会 ・若年層の異性への興味喪失 ・青年会活動の衰退 ・結婚仲立人がいない

【くらし】
・行きあたりばったりの政策
・学校統合と行政サービスのエリア
・閉そく感
・(大人の)遊ぶ場が少ない
・住居費等　物価が高い

【仕事】
・収入が少ない
・低賃金(県下ワースト)
・働く場所の不足
・職業の片寄り(不足)産業構造の問題
・低収入
・親との同居が楽　親も認める
・若者のUターンの低下
・子供の世話への不安
・仕事がない

【人口構造】
・高齢者等の施設への転出
・行政だより
・転出超過
・人口構造の急激な変化

②人口減少に係る対策等

【出生】
・教育への投資
・多子世帯の応援(保育だけでなく・・・)
・誕生祝金(200万円)
・子育て世代への住居費, 教育費の補助(電気料も)
・幼→義務教育期間の必要経費の公費負担
・教育費 18 才までタダ

【未婚】 ・未婚者支援対策事業の構築　協議会の設置 ・子育てと結婚を応援するまち気仙沼の表明（都市宣言をする！！）まちづくりの方向性を示す ・気仙沼市こども条例の制定 ・縁結び功労金支給事業の構築 ・出会いの場の創出（サークル等） ・自治会活動への若者の積極参加をうながす ・中高年の出会い ・各種サークル活動の立ちあげへの支援 ・横のつながり（見合いイベントの前に） ・独身者に対し，各種サークルへの参加経費補助 ・仲人システムを構築し，強化する
【くらし】 ・宝島社の講演会　田舎暮らし東北2位 ・他市町より優位な施策立案 ・広域連携（行政エリアと生活エリア） ・行政サービスエリアの見直し（子育て，教育，コミュニティ，福祉，防災，まちづくり） ・情報発信と共有（課題，取組，成果）の見える化 ・ふるさと納税活用（議会からの具体提案） ・趣味づくり（公民館の強化） ・高齢者の生きがいづくり ・転入者への住居費の補助
【仕事】 ・企業誘致（大企業） ・地域おこし協力隊の見直し ・副業支援（2刀流） ・高齢者の社会参加（有償ボランティア） ・HP，デジタルコンテンツを充実させ，PR！　情報，魅力の発信 ・チャレンジの応援（制度の点検と再構築） ・議員の職場体験（水産加工とか） ・デジタル環境の整備 ・配偶者控除を増やす ・扶養控除の限度額を増やす ・企業誘致
【人口構造】 ・終身施設の設置 ・3世代同居支援

◆第２班　6名

リーダー(進行役)：菊田　篤委員	発表者：白川　雄二委員
三浦　友幸副委員長　　及川　善賢委員　　秋山善治郎委員　　熊谷　伸一委員	

①人口減少に係る課題
【行政機能】 ・市のマンパワー不足→市民の負担増 ・人口減→交付金の減少 ・人口減　行政サービスの低下 ・人口減　企業の数が減る→税収の減少
【コミュニティ】 ・人口減　コミュニティーの崩かい ・人口減　市民力の低下 ・人口減　市民負担の増加 ・自治会の存続
【インフラ】 ・インフラ(水道，道路)などの維持ができなくなる ・若者の流出→空き家の増加
【産業】 ・生産人口の減少→労働力の低下　事業者の減少 ・若ものが地元に残るためには？ ・年度任用職員待遇改善 ・Uターン受入体制の充実(中山間地) ・遊休農地活用 ・初任給の引き上げ ・雇用環境 ・市外，県外の企業賃金　市内が低いイメージ ・次世代への家業の継承 ・会社の種類が少ない ・小企業立ちあげ
【医療・福祉】 ・貧困家庭の増加 ・医療，福祉の選択肢の減少 ・独居高齢者の増加→見守りのマンパワー不足

【結婚・子育て】
・出会いの場が少ない
・晩婚化
・未婚率の増加
・離婚率？　シングルファザー, マザー多い　少子化につながる
・出生率の低下
・子育ての不安　金銭面
・子育ての不安　核家族化

【教育】
・大学, 専門学校がない

②人口減少に係る対策等

【行政】
・近隣・遠地都市との資源の共有（人・施設・事業）（まず把握することから）
・年度任用を継続雇用に
・官製ワーキングプア脱出

【コミュニティ】
・コミュニティの活性化　協働のまちづくり
・行政区再編　自治会の再編

【インフラ】
・移住者へのメリット増大策（アパート代の補助, 半額とか）
・空き家を最初にリフォームし, 安価にて販売

【産業】
・水産業の構造改善（養殖への支援）取るだけではダメ
・高卒後の転出した若者が地元に居るための優遇策（10年間住民税非課税とか）
・主産業にする施策（魅力造り）
・誘致（水道料の無償化, 固定資産税の免除など）
・大手メーカ企業の誘致
・IT産業の誘致　農地を活用した新しいライフスタイルの構築
・Uターン者の要望に即応する
・農村応援システム

【医療・福祉】
・新聞・牛乳・薬屋　認知症サポーター　見守りネットワーク事業
・子ども支援→児童福祉の徹底
・看護学校の充実と高校との連携

【結婚・子育て】
・子育て環境充実（18 才までお金がかからない）
・世帯の子どもの数に応じた税の免除策（市民税，固定資産税など）
・各種補助金，助成金の所得制限をなくす
・20代で結婚したら100万円
・20代で結婚したら支援を大きく
・若もののサークル支援を
・女性支援を見直す　女性のライフサイクルにあったまちへ（結婚，産後などの労働環境）
・第一子　月5万円　第二子　月5万円　第三子　月5万円

【教育】
・大学の研究・教育フィールドへ
・学校誘致

【全体】
・市のブランド化→ふるさと納税の増加
・市の人口減少　持続可能性の対策をつなぎ合わせる
・様々なまちのブランド化　産業　人権　環境
・民間資源を呼び込む
・氣を活かす施策
・都市部とのつながりを造る（水産・農林業への興味を移住や交流人口増につなげる）
・ファンクラブにもまちの課題を共有
・交流人口増やす
・応援団を増やす

委員ワークショップの様子

別紙２

人口減少対策に関する講演会実施報告

１　目　的

本市が，宝島社の雑誌『田舎暮らしの本』で発表している「2023 年版住みたい田舎ベストランキング」で東北エリア「総合部門」２位を獲得したこと等を受け，本特別委員会の調査活動の一環として，当該専門誌の柳順一編集長を講師に迎え，「帰って来たくなるまちづくり」と題し，議員研修会も兼ねて，市民等を対象とした講演会を開催したもの。

２　日　時　　令和５年６月３日（土）　14：00～15：30

３　会　場　　気仙沼市役所ワン・テン庁舎　２階　大ホール

４　対　象　　どなたでも参加可能とし，入場無料，事前申し込み不要とした。

５　参加者　　来賓（市長，副市長）２人　市議会議員 19 人　一般参加者（市職員含）55 人
議会事務局５人　計 81 人　報道機関（三陸新報，K-NET）　２人

６　講　演　　演　題　「帰って来たくなるまちづくり」
講　師　株式会社　宝島社　『田舎暮らしの本』
編集長　柳　　順　一　氏

７　主　催　　気仙沼市議会（担当：人口減少対策調査特別委員会）

８　その他　　講演会終了後，参加者に「人口減少対策に関するアンケート」を記入していただき，回収した。
※アンケート集計結果　別紙のとおり

９　内　容

宝島社『田舎暮らしの本』の編集長 柳順一氏を講師に迎え，「帰って来たくなるまちづくり」と題し，講演をいただいた。

講演では，始めに宝島社の紹介があり，その後，本市が『田舎暮らしの本』の「2023 年版住みたい田舎ベストランキング」で東北エリア「総合部門」２位を獲得した内容等について説明を頂いた。このアンケートを基に行った大阪経済大学の調査・検証では，概ね市町村間における支援策の実施状況に大きな差異はないが，支援策の効果の違いは，起業・事業支援策及び移住者の受け入れ体制の違いにより，移住者の増減で大きな差異が確認できるというものであった。例えば，移住相談で専任職員が配置されていること，４年以上継続している担当者がいることが有意な要因となっている。本市の上位ランクインは，本気で移住定住施策を充実させた成果である。

また，人気移住地の傾向としては，コロナ禍では東京通勤圏の地方都市が人気であり，宮城県は７年ぶりに転入超過，東北県で唯一の転入超過となっている。

お手本になる人気移住地は，大分県豊後高田市で，人口２万人以上３万人未満のまち全４部門で１位，11 回連続ベスト３，2014 年以降，「転入>転出」の「社会増」を継続している。定住支援策 185 項目のうち、移住者限定の施策は一部であり，施策の多くは，市民が対象となっている。定住施策の充実は，市民サービス，市民生活の向上に寄与し，人気移住地は「みんなが暮らしやすいまち」を目指して地域が一体となって取り組むのが王道であり，故郷=帰って来たくなるまち」になるには，「暮らしやすさ」だけでは十分ではない。

若者が「大切な人がいる」「自分の居場所がある」「育ててもらった」と感じられることが必要であり，遊び，お祭り，イベント，プロジェクトなどに参加する機会，年上の方に可愛がってもらう経験が必要であり，故郷に温かい人間関係があれば，移住先の第一候補になるとのことであった。

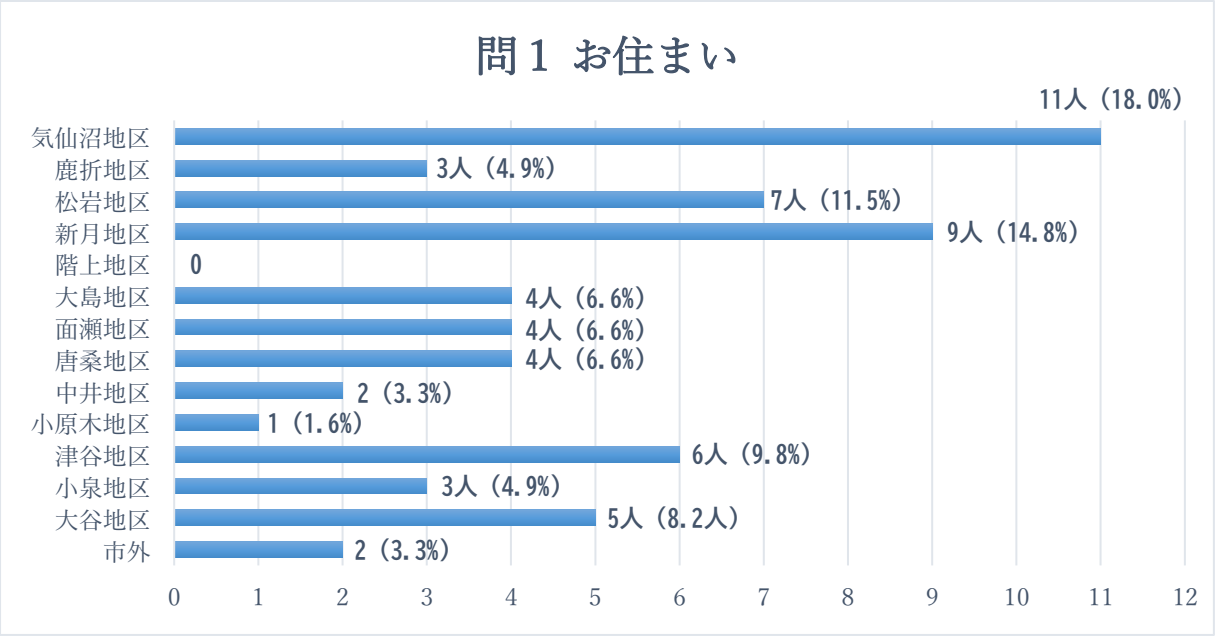
気仙沼市議会

人口減少対策に関するアンケート集計結果

出席者 81 名，回答者 61 名，回答率 75.3%

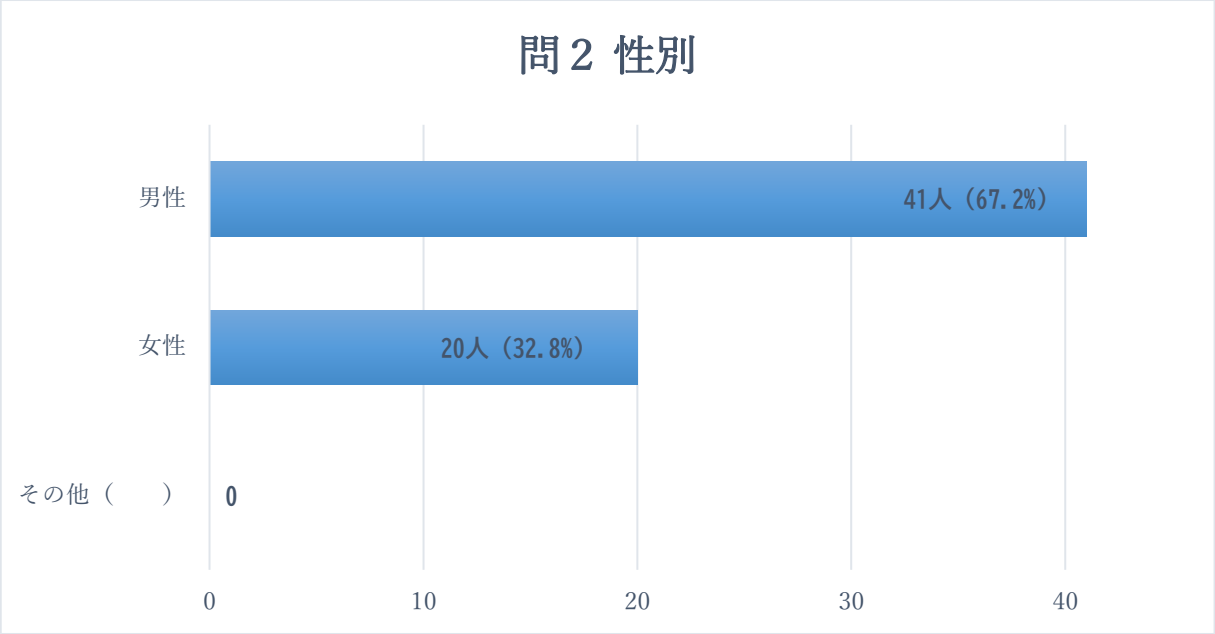
問１　お住まい　※回答 61

1　気仙沼地区　2　鹿折地区　3　松岩地区　4　新月地区　5　階上地区
6　大島地区　7　面瀬地区　8　唐桑地区　9　中井地区　10　小原木地区
11　津谷地区　12　小泉地区　13　大谷地区　14　市外



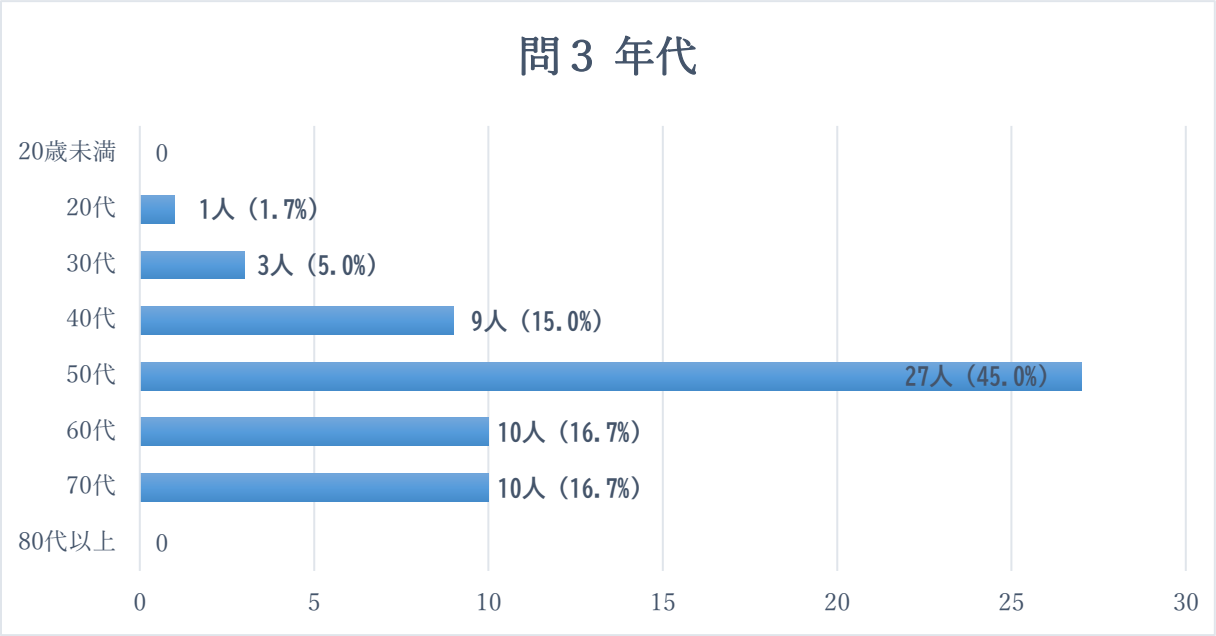
問２　性 別　※回答 61

1　男 性　2　女 性　3　その他（　　）



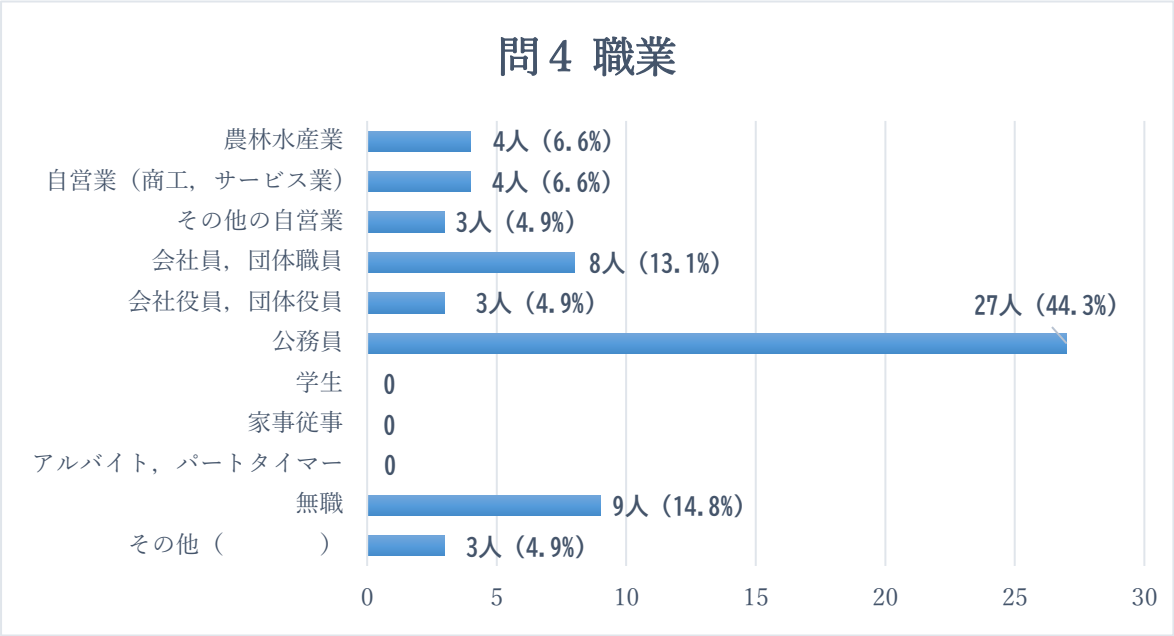
問３　年 代　※回答 60　未回答 1

1　20 歳未満　2　20 代　3　30 代　4　40 代　5　50 代　6　60 代
7　70 代　8　80 代以上



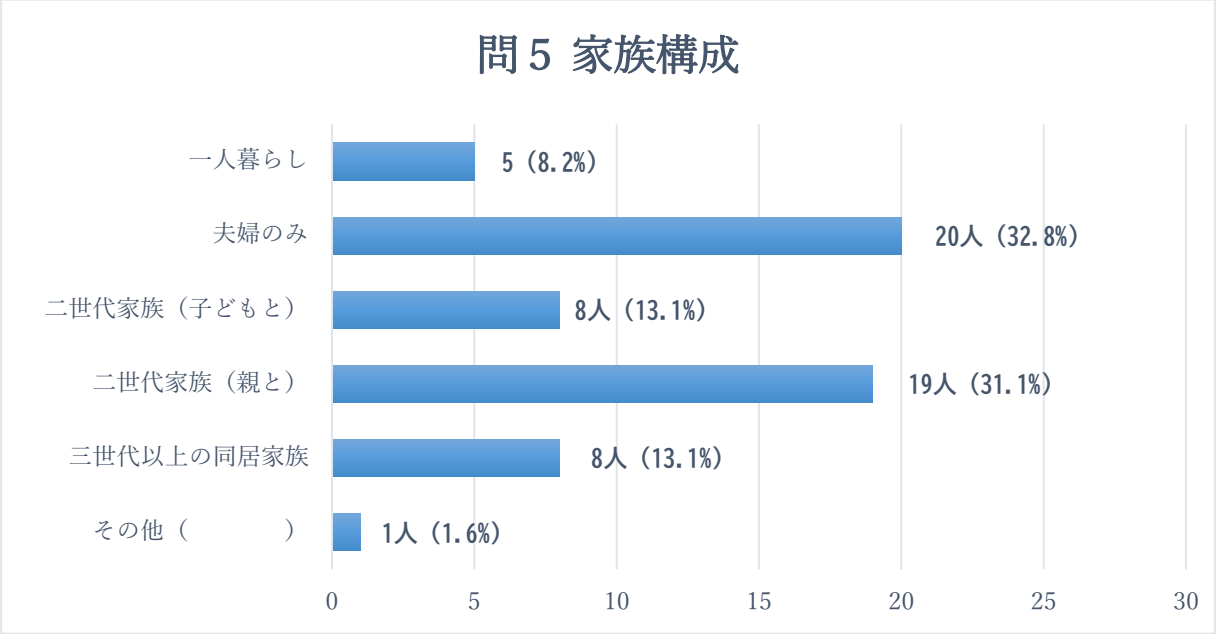
問４　職 業　※回答 61

1　農林水産業　2　自営業（商工，サービス業）　3　その他の自営業
4　会社員，団体職員　5　会社役員，団体役員　6　公務員
7　学生　8　家事従事　9　ｱﾙﾊﾞｲﾄ，ﾊﾟｰﾄﾀｲﾏｰ
10　無職　11　その他(　　)



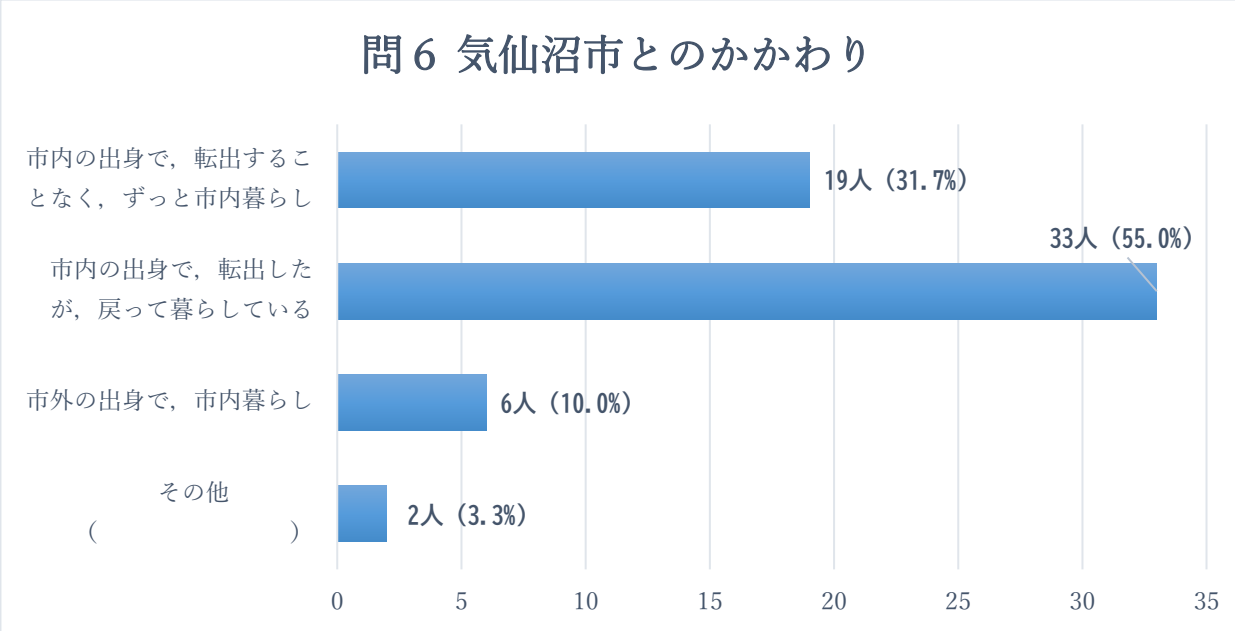
問５　家族構成　※回答 61

1　一人暮らし　　2　夫婦のみ　　3　二世代家族（子どもと）
4　二世代家族（親と）　5　三世代以上の同居家族　6　その他（　　）



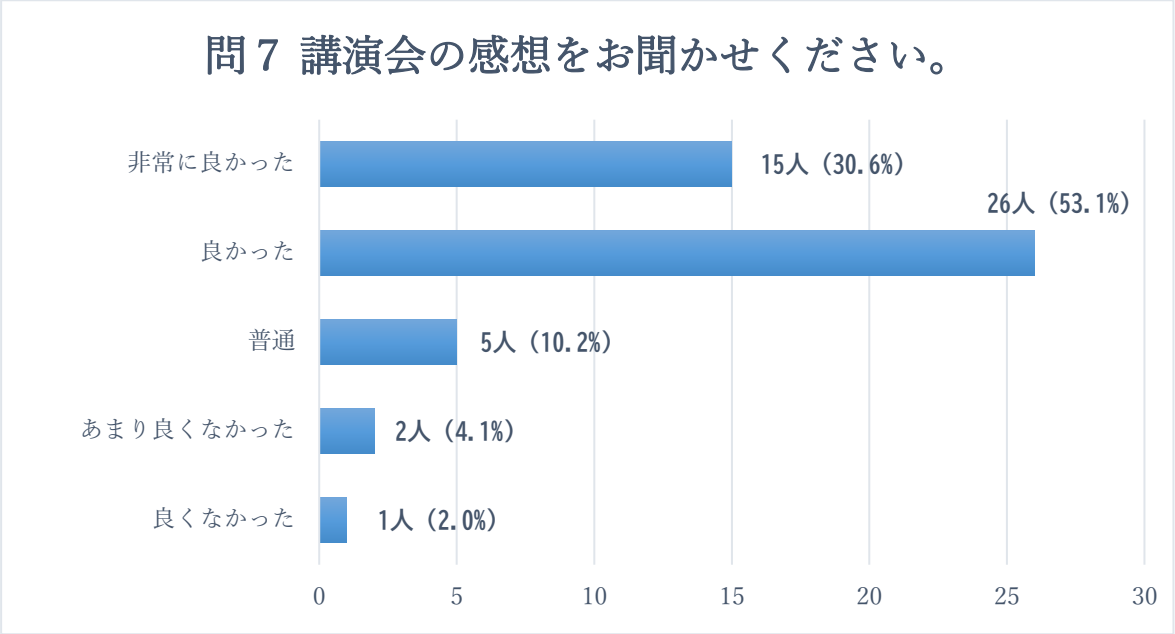
問６　気仙沼市とのかかわり　※回答 60　未回答 1

1　気仙沼市内の出身で，市外に転出することなく，ずっと市内で暮らしている
2　気仙沼市内の出身で，進学や就職などで市外に転出したことはあるが，戻って暮らしている
3　気仙沼市外の出身で，市内で暮らしている
4　その他（　　）

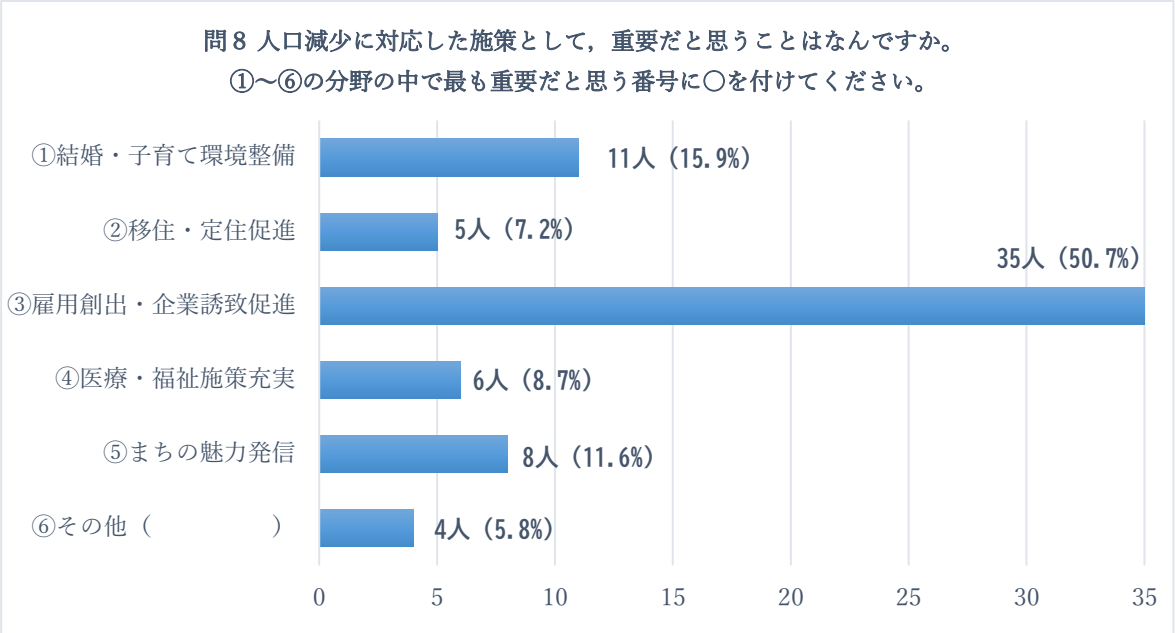


※その他２人（南三陸町，市外出身で市内に勤務）

問７　講演会の感想をお聞かせください。※回答 49　未回答 12
　1　非常に良かった　2　良かった　3　普通　4　あまり良くなかった　5　良くなかった



問８　人口減少に対応した施策として，重要だと思うことは何ですか。①～⑥の分野の中で最も重要だと思う番号に〇を付けてください。※複数回答　回答 69　未回答 3
　①　結婚･子育て環境整備　②　移住･定住促進　③　雇用創出･企業誘致促進
　④　医療･福祉施策充実　⑤　まちの魅力発信　⑥　その他（　　）



※その他4人（教育支援，まちとしてのビジョンと戦略，生活の豊かさ，テレワーカー誘致）

問９　Ｕターン率向上（特に若い世代）のためには何が必要だと思いますか。ご意見を自由にお書きください。

・住宅，アパートの補助。
・お試し保育をしながら，仕事さがしなど出来るとお試し移住ができるのでは。
・競争力のある産業創出，一次産業の安定雇用確保。
・若者の声を大事にする。
・空き家について，子育て支援，企業誘致。
・単身や世帯を持って，Ｕターンする場合等は，気仙沼から通勤出来る職場があるかが一番重要なポイントで，さらに子育て世代ではより子育てしやすい支援制度を他市町村より，良い事が条件と思われる。
・特に若い女性が働く職場が必要。
・狭い範囲における地域のゾーニングによる都市の利便性向上。
・水産業中心にするも他の水産都市にはない特色，魅力をどうつくり発信していくか。
・震災ボランティア等での気仙沼生活体験から，地元民には気づかなかった，外から来た人に見える魅力ポイントが参考になると思う。
・市内企業の就労環境の整備と当局並みの賃金体系が必要である。
・若い人たちが起業できるための環境づくり，自立できるまでの支援。
・子育て・医療・教育の問題を含めたライフプランの共有。
・ICT 環境の整備。
・若い世代との価値観の共有，SDGs，地球温暖化，多様的価値観，男女平等　など。
・生きがいをもって仕事に向き合える環境。
　・就職環境（賃金，職種など）　・生活環境（住居，買い物など）
・出て行く前に気仙沼の良さを感じさせてあげられるよう，今ここで生活している大人が楽しく過ごせること。
・子どもの身近な大人（親等）が気仙沼で楽しく暮らせていることが大事だと思う。
・子どもに地域での人間関係を大切にさせること。
・仕事があるかどうか，特に IT 関連の仕事，町のにぎわい。
・水産都市に特化した行政だけでなく，他の分野にも目を向けた幅のある施策をお願いしたい。
・子育て支援，働いていても子育てができる保育所，ファミサポ等。
・年収が少なくても生活できる仕組み（休耕農地の貸出など）。
・シニア世代から技術を学べる仕組み（自給自足，野菜づくり，水産業等，DIY）。
・やりがいのある仕事，明るく，楽しくやっていける。
・Ｕターンで帰ってきたが，高卒の町で残念な気がする。
・空き家支援の充実と子育て支援（教育，学習しやすい）。
・東京と同じとまでは言わないが，まあまあ給料がもらえる仕事があれば，戻ってくる可能性がある（30 代で手取り 30 万円，40 代で 40 万円）。
・移住した後は，知り合いをつくれた方が良いので，横のつながりを作れる仕組みがあると良い（ぬま大，移住ママ達の企画など）。

・戻る先を気仙沼市の枠にこだわるのは既に無理があるのではないか，市町の枠組みを超えて広い意味で戻る（U ターン）というよりは，各市町の特色を活かした様々な役割を深掘りすることが大事ではないか。
・したい仕事の選択肢が多く，気仙沼で暮らし続けたいと思える幸福感が一人ひとりに継続的に生まれ，周りにも波及していること。
・帰ってくる→住み続ける，られる事が大事。生活するうえでは雇用創出が大事と考える，経済的な安定も必要と考える。仕事は重要。
・帰ってくる期限がついたような奨学金制度をつくる。または，帰ってきて 3 年定住したら無償にする等。
・まずは食べていける雇用の確保（自営などで自立できる場合は少ないと思う）経験値の高い受入体制の人員の確保，地に足がついた生活をきちんとイメージしてもらう。
・18 才までにまちの魅力を感じること。自分の故郷を自慢に，他に発信できるようになること。
・U ターンするからには，魅力ある職場の存在だと思う。先日の新聞紙上，商工会議所で取り上げた人口減少対策として，40 項目もあったと聞いていますが，それらのことを私達市民も知った上で取り組みに協力して行くことが出来るのではないか。
・豊後高田市の無料市営塾の教育支援等は，まちに育てられたという実感を持てると感じる　それがふるさとへの恩返しとして U ターンに繋がるかもしれないと感じた。
・進学のために故郷を離れても，魅力的なお仕事があれば帰ってくるかもしれない。
・働き先の選択が少ないため，U ターンをあきらめると聞いたことがある。海があり山があり食べ物もおいしい気仙沼なので何か変えることはないと思うが，就職先，それだけが問題だと思う。
・田舎の魅力，スローライフが叶えられる（ワークライフバランス）。安心して子育てが出来る。こじんまりしているまちだけど，住んでいて幸福度が上がるまちと感じられる。
・働きやすい職場づくり。賃金増。
・ジェンダーギャップ解消。若い世代に帰ってきて欲しいなら，若い世代の意見を聞くことが必要ではないでしょうか。
・雇用の創出と賃上げ。家賃が安いこと（アパートなど）。
・多世代間の交流。収入増。
・子育て政策と住宅支援施策の充実。
・やはり収入の確保，職業選択の多様化，それに伴う暮らしの環境整備。
・市外から戻ろうとした時に一番に問題となるのは収入。戻っても仕事があるとなれば，戻りやすくなると考える。また，老後が暮らしやすく，楽しいとなれば安心して戻れると考える。
・若い世代，特に女性のニーズに合う職種，給与，就業環境（休日等）。
・若い世代　U ターン者が加わりやすいコミュニティ。
・女性が暮らしやすい（幸福感，楽しめる）まちに。
・孫ターン奨励金。
・高齢者・子育て世帯リフォーム支援補助金。
・お帰りなさい住宅改修事業補助金。

・問い合わせに耳をかたむけ，良い印象を持ってもらう。
・まずは希望する就職先があるかどうかなのかと思う。
・若い女性がクリエイティブに働ける場が必要（まかせてもらえる場と風土が前提）
・子育て支援のメニューが多くあることが必要。
・本市は娯楽施設が足りないと思う。
・親が子に対して「帰ってくるな」又は「帰ってこい」と言わずに，本人の意思に任せることが大切だと思う。高校生以下の子どもたちの背中を押し，信じて見守ることが結果として U ターンを生むのかもしれないと思う。
・問 8 の①結婚・子育て環境整備，③雇用創出・企業誘致促進が最も重要と思う。
・住みやすいまちづくり，気仙沼は公共施設と商業地域が点在しているので，まちの賑わいを作り出しにくい印象がある。福祉や雇用も大切だけど，車がないと年取った時，安心して住み続けられない不安がある。公共交通の集約も出来るので，もっとグランドデザインをしっかりした方が。
・U ターンしたいと思えるまちの魅力づくり，住んでいる人がこの町で暮らすことを楽しんでいること。仕事。
・仕事と賃金，県内一低い　このような講演会を色々な方を招いて開いて欲しい。
・住んでいる自分が楽しくなるようにしていく。

問 10　今後の市政やまちづくりについて，ご意見を自由にお書きください

・100 円～200 円で乗れるバスの運行があると良い。
・ふるさと納税などの独自財源確保と気仙沼市ならではの特色ある施策展開に期待。
・気仙沼地域の地域性を活かした行政の推進。
・医療，福祉施策の充実。
・ガイドブックの更新（移住等）、他市の取り組みを取り入れる，地域の良さを引き出して行く，仕事，子育て，問い合わせの内容をまとめ不足している問題に取り組む（みなとからの調査），U ターンの人の働く場所の確保。
・都市機能の役割選択と集中を的確に行い，成長するまちづくりを期待。
・市道で幅の狭い道路の側溝には全てフタをかけ，すれ違いやすくすること。買収・拡幅は財政負担が大きすぎるでしょうから　高齢者でもいくらか運転しやすくなるように。
・親の介護のため等，義務的 U ターンで決断を迫られても現役世代が安心して転職できるよう就業機会・職種をいかに増やし，充実させるか。介護受け入れ体制の充実，スタッフの待遇改善につながるような老健施設への市独自の支援。
・危機感が足りない。国の政策どおりで本当に人口減少問題が解決すると思っている人はほとんどいない。現在の出生率を維持するだけでも難しいと思う。もっと効果的な政策を打ち出してほしい。気仙沼の農・水業は魅力がいっぱいだ。しかしそれだけでは不十分で，6次産業化を図るための支援など若者が夢と希望をもって取り組める政策を提示してほしい。出生率の問題は決して個人に帰するべき問題ではない。日本という国の在り方と，子どもたちの未来がかかっている。政治や行政の在り方が厳しく問われていることを忘れてはならない。

・自然を活かした町づくりが必要。気仙沼の良さは自然（海・山）が多く，これを大切にすること。それゆえ，ILC とか風力発電など十分吟味する必要がある。
・お金になる雇用が無い，安すぎ。
・本日聞いた支援策は，移住することが決まった後にあると良い，喜んでもらえると思う。移住するきっかけが何なのか，豊後高田市の 20～39 歳女性が，なぜ移住することになったのか知りたいと思った。
・帰ってきたいが大切なテーマだとする側がまず認知すること。多様な人材が来ることに加え，その人たちを活用する人材も大切。多様性の良し悪しの良しを見極めること。
・人口減少，移住だけに偏らないで欲しい。震災後，エネルギーとの関りで山が見直されていて若い人を取り込んだ事業が立ち上げられている　そのような形での人の受け入れも対策のひとつかと。
・気仙沼市の努力が形に見えたことは大切であり，もっと市民が関心を持てる機会を増やして，全体意識を高める必要性は感じる。
・この施策があればいいというものは，なかなかないと思う。小さなもの，人の心を育むものなど，色々な施策がつながって，ここに住みたい，帰ってきたいと思ってもらえるのでは。まずはここに住んでいる人が，住みやすいと思える，心に余裕がもてるようなまちになるよう。
・気仙沼市は，地理的，歴史的に見ても地場産業を軸とするのが大切だと思う。海をとらえ直して，漁業水産業のアップデートとその他海洋に関する新産業の創出。現存の人ではなく，新しい起業家をいかに呼び込み競争を起こすかが大切ではと思う。
・豊後高田市のように，柔軟に制度を導入　時に保育や子育て制度などの更なる充実。
・専門職員の張り付けを。
・話し合う場が数多くあれば最高。
・講演でもあったように，「市民が暮らしやすいまち」になれば移住者もおのずと増えて来ると思う。復興のハード面が落ち着いた今，「市民の暮らし」が豊になるまちづくりをお願いしたいと思う。そのためには人づくり，地域の活性化につながる取り組みを強化していただければと思う。
・気仙沼は漁港ということもあり，男性の視点が強いと思う。女性の視点を活かして，バランスの良いまちづくりをお願いしたい。皆が暮らしやすいまち，優しいまちでありたい。
・豊後高田市の政策を参考にして当市も準じた方が良い。
・「数字を追わない」と当局は言っているが，「まずは追え」という考えも重要でないか。
・市と市民の協働の場面が多くなることが活性化に繋がると思う。
・今後，技術の発展により生き方，暮らし方が容易に多様になりえる（リモートでの仕事，2拠点での暮らしなど）。そういった人たちの受け皿になりうる環境（主に施設や通信環境など）を整えることが大切かと思う。
・人口減対策の話し合いの場には若い世代（中学生，高校生）への呼びかけが必要と考える。

・奨学金返還支援，素晴らしい政策だと思う。若い人が戻ってくる仕掛けをどんどんして欲しい。ゴールデンウィーク，気仙沼で何もイベントがなかった。陸前高田や大船渡ではイベントがあった。もっとイベントにも力を入れて欲しい。子育て世帯が移住するには住宅の補助を手厚くしてタダ同然で家が持てる位の目玉的要素が必要だと思う。
・人を活かすまちづくり。
・「帰って来たくなるまちづくり」ではなく，「住みたくなる街気仙沼」の方が良いのでは対象は出身者だけですか。誰もが住みたくなる町を目指そう。
・MINATO の取り組みと地域民がつながる方法，仕組みがあると良い。

別紙３

人口減少対策調査特別委員会「団体等との意見交換」実施報告

－「帰って来たくなるまち気仙沼」を考えるワールドカフェ －

日　時：令和5年8月3日（木）午後7時
場　所：ワン・テン庁舎　大ホール

1 内　容

本市における人口減少の要因の一つは，若い世代の流出となっており，本特別委員会では，この状況を踏まえ，本年度の調査・検討メインテーマを「帰って来たくなるまち気仙沼」とし，調査活動を行っている。

今回は，調査活動の一環として，気仙沼市移住・定住支援センターMINATOに協力をいただき，Uターンに関する現状や課題等を共有し，今後の人口減少対策の参考とするため，ワールドカフェ方式により，本市在住のUターン者及びMINATOスタッフとの意見交換を行った。

2 ワールドカフェの意見等

◆第1グループ　5名　※テーブルホスト以外は，ラウンド毎に席替え

◎テーブルホスト 三浦　友幸	第1ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	今川　悟	秋山善治郎
	第2ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	及川　善賢	佐藤　健治
	第3ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	熊谷　雅裕	三浦　由喜

良かった点（第1グループ）

【自然】
・自然に触れる時間が増えた
・食べ物をもらえる

【Uターン者等】

・小さい時食べたおいしい魚を食べられる
・釣りができるまち

【特別委員会委員】

【テレワーク】
・職場が近い　関東は電車で1時間
・好きな仕事を好きな場所でできる（結果的に）
・20～30 代のIターン者・起業家が多い
・リモートで作業ができる拠点は多い（コワーキング，カフェ，図書館）
・人口に対してカフェとスナックの数が多い

【Uターン者等】

【つながり】
・地元のつながりがあるなかで仕事ができる
・新しい施設が増えている

【Uターン者等】

課題（第1グループ）
【補助金】 ・助成金が認知されていない 【Uターン者等】 ・市の通常事業でも移住・定住に資する事業は全てみせていく 【特別委員会委員】 【固定費】 ・住居＆移動　手段の確保 ・車の維持費 【Uターン者等】 ・1割が公営住宅（帰りにくい） ・大学へ通わせる費用が苦しい 【特別委員会委員】 【仕事】 ・市からの仕事でも給料が低い ・給料の差 ・仕事（特に職種） ・給料上がらない 【Uターン者等】 ・給料が低い ・都市部との給料の格差 ・仕事選べない ・跡継ぎ以外はNO 【特別委員会委員】 【子ども】 ・屋内の子どもの遊び場が少ない ・子供の遊ぶ所がない ・どの公園も遊具が同じ ・教育 【Uターン者等】 ・プールが3回しかない 【特別委員会委員】 【つながり】 ・同級生がいるか分からない 【Uターン者等】 ・コミュニティが広がりにくい（友だちだけで集まる） ・大学とか専門校とかキャリアがあるほど ・年を重ねると家族助かる（子育て介護） 【特別委員会委員】

課題（第1グループ）

【コミュニティ】
・地域の見られている感　≒　閉塞感
・そもそも地域に対してネガティブ　知らない
・大きな商業施設

【Uターン者等】

【病院】
・生活費等のイメージがしにくい
・小児科少ない
・病院待ち時間長い
・病院が少ない

【Uターン者等】

改善案（第1グループ）

【情報】
・公営住宅や空き家　若い人にかして

【Uターン者等】

・発信力　広報　HP（外向けも）
・好きなこと！趣味！
・孫ターン奨励金　県外に居住している方が祖父母の実家がある本市に転入する際に奨励金交付（50万円）

【特別委員会委員】

【子ども子育て】
・氣の復活
・子ども支援の充実
・子育て中の女性が働きやすい事業
・ひとり親の支援（ひとり親が住みやすいまち）

【特別委員会委員】

【仕事】
・会社が副業の後押しする（会社にとってもリソースが増）

【Uターン者等】

・収入を伸ばしていける仕組み
・農作業を一年間体験してみる
・副業アプリほしい！！
・24時間自由に仕事をして！
・逆求人　私を雇って下さい！！　新聞にPR広告
・大学生への就職説明会

【特別委員会委員】

改善案（第1グループ）
【つながり】 ・外とのつながり内でのつながりをもてる ・オープンな空気 ・友人がいる（友の友は友だち方式） 【特別委員会委員】 【病院】 ・病院の待ち時間の解消　→　スマホで ・午後診断 【特別委員会委員】

◆第2グループ　5名　※テーブルホスト以外は，ラウンド毎に席替え

◎テーブルホスト 遠藤　秀和	第1ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	及川　善賢	熊谷　雅裕
	第2ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	千葉　慶人	秋山善治郎
	第3ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	佐藤　健治	熊谷　伸一

課題（第2グループ）
・働き方の幅が狭い ・給与と生活費のバランスがみえる ・「やりたい仕事」がない（イメージ含め） ・仕事（賃金） ・給与の低さ ・テレワーク環境の不足 ・家賃の高さ ・単身者向けの物件が少 ・単身物件が高い ・住居と移動手段の確保 ・仕事のイメージが湧きづらい 【Uターン者等】 ・賃金が低い？ ・仕事 ・経営者の考え方改善 【特別委員会委員】

課題（第2グループ）
・結婚 ・1 人でイベントに参加しづらい（様々なイベント開催されているけど） ・プライバシー　一人の時間をつくりにくい ・まちコンは参加しにくい ・所得も生きがいも充実していたい！！ ・海外連携の強化 ・やりがいと経験を生かせる ・まちの中に顔見知り・家族がいる感覚 ・気仙沼の状況が分かりづらい ・同世代のIターン起業家（同志）が多い ・情報の固定化 ・もどってからの支援があるのかないのか分からない 【Uターン者等】 ・ハードルが高い ・U ターンの決め手は？ ・必要な支援は？ 【特別委員会委員】

対策（第2グループ）
・新しい働き方が認められる ・会社が副業を後押しする ・副業をスタンダードに ・シェアする相手になやむ ・コーディネーター人材 【Uターン者等】 ・農地がある海がある ・農地あっても業になりにくい ・副業の確立 ・住宅補助が必要 ・空き家のシェア化はできないか 【特別委員会委員】

対策（第2グループ）
・まちの中で自分の役割が多い 【Uターン者等】 ・出会い ・キッカケが欲しい　出会い ・サークルなど ・楽しみをみつける ・情報の発信 【特別委員会委員】

◆第3グループ　5名　※テーブルホスト以外は，ラウンド毎に席替え

◎テーブルホスト 白川　雄二	第1ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	佐藤　健治	熊谷　伸一
	第2ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	今川　　悟	三浦　由喜
	第3ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	千葉　慶人	及川　善賢

良い点（第3グループ）
・友だちがそばにいる ・自然であそべる ・新しい施設，飲食店が増えていてうれしい ・おじいちゃんおばあちゃんが近くにいる ・「暮らし」と「働く」が近い ・家族や顔見知りがまちの中にいる感覚 ・同世代のIターンや起業家（同志）が多い ・まちの中で自分の役割がある ・MINATO が心強い 【Uターン者等】 ・友人たちが大勢いた（遊び仲間） ・食べ物が美味しい ・海があるといい ・車とレジャー ・生きがいを求める→起業 ・長男の宿命 【特別委員会委員】

課題（第3グループ）
・住むところが高い ・小児科が少ない ・戻る理由になる強みをつくる ・プライバシー　一人になる時間 ・固定費が高い（車，家賃，光熱費） ・車が必要 ・給料上がらない ・単身者向けの物件が少ない ・仕事の少ない ・あずけるところ ・情報の固定化 【Uターン者等】 ・安価な家 ・職種が限られた ・国家資格の利用 ・おためし移住の1年は短い ・となりの芝生は青いんだろうなあ ・就職先の確保 ・子育て環境 18 才までお金がかからない ・移住したいのに公営住宅に入れない ・都市部との給料の格差 【特別委員会委員】

対策（第3グループ）
・シェハウスもっとある ・挑戦を応援する ・子育て支援 ・ちょっとだけ参画できる機会（例：お祭りの太鼓） ・シェアの文化を根付かせる（車，情報など） ・空き家を若い人達へ ・習い事の充実 ・小さく始められるテナント ・個人事業主を支援する仕組み ・専門家に学ぶことができる環境 ・空き家（住まいも店舗も）かりやすい ・公営住宅貸してほしい 【Uターン者等】

対策（第3グループ）

・自分ですきな会社をつくってやって！
・リフォーム補助の増額
・ふるさと納税の有効利用　→　定住
・起業支援策が必要
・女子ターン奨励金　県外に居住している単身女性が定住目的に本市に転入する際に（50万円）
・妊産婦医療費の無料化
・子女次男支援　市営住宅割引　リフォーム補助
・シンボル事業PR
・分析　実際の収入とは（家族，実家，食費）
・空き校舎活用
・お金だけでなく経理も支援

【特別委員会委員】

◆第4グループ　5名　※テーブルホスト以外は，ラウンド毎に席替え

◎テーブルホスト 菊田　篤	第1ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	千葉　慶人	三浦　由喜
	第2ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	熊谷　雅裕	熊谷　伸一
	第3ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	今川　悟	秋山善治郎

良かった点（第4グループ）

・大好きな気持ち気仙沼
・色々な取り組みがあって助かっている
・旬な食材を味わえる
・のんびりした生活　21時にはねれる
・自然に触れる時間が増えた
・知り合いが近くにいる
・恩師が近くにいる

【Uターン者等】

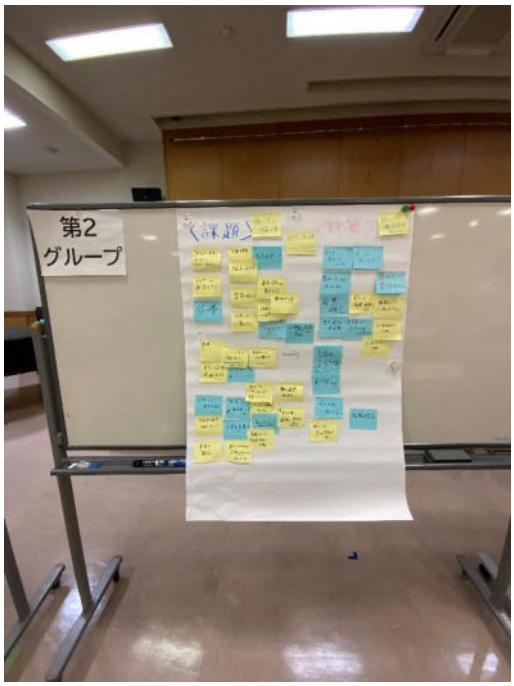
・職住が近い（ペースゆるやか）
・安心できる
・生活費が安い（実家あり）

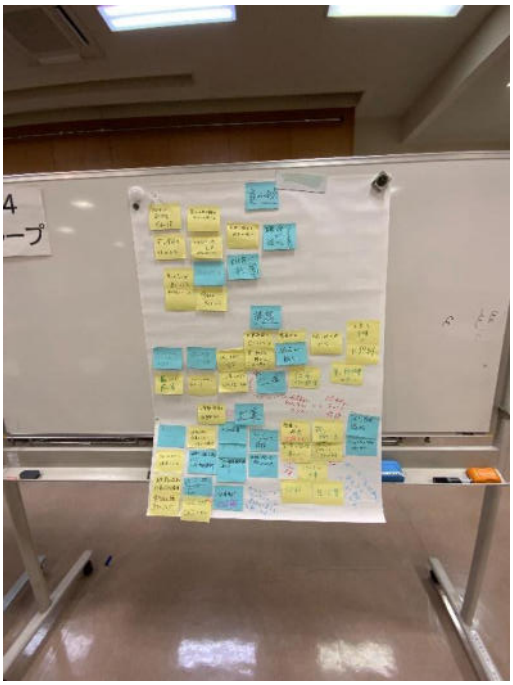
【特別委員会委員】

課題（第4グループ）
・商業施設が点々としている ・賃金が安い ・子供の遊ぶ所がない ・子育て支援→小児科 ・ペット可能な賃貸 ・買い物する所がない（一関，石巻まで・・・） ・若い人に応援 ・がいとうがない（くらい） ・1人暮らしの住居　シェアして暮らせる住居 ・仕事（特に職種） ・車の維持費が高い 【Uターン者等】 ・出会いの場（男女，同性，友人）が少ない ・夜の時間がひま ・給与が低い ・仕事　→　この情報が知れるかどうか　→　給料が下がる前提 【特別委員会委員】

対策（第4グループ）
・情報発信を多面的に！ ・21時以降に食事ができる場所を増やす ・住居の確保　新婚1年 ・新しい働き方 ・空き家，公営住宅　若い人へ UI ターン　→　ここが大事 ・地元の日払いアルバイト ・バランスが大事 ・給料　→　気仙沼でのキャリアステップや昇給が見えると比較しやすい ・生活費　→　気仙沼での生活費が見えると比較しやすい！ ・リモートワークできる環境をつくる ・東京圏の企業の仕事ができる環境 ・勉強の場　スキルアップ ・〇〇クラブ　〇〇サークル 【Uターン者等】

対策（第4グループ）
・生活の「メリハリ」が大事 ・大人の食育 ・ライブハウス常設 ・トイレ改修補助 ・「生きがい」をどう見つけるか ・シェアハウス補助　日本一目指す ・子育て支援を協力に！！ 　①　保育料無料　②幼稚園授業料無料　③誕生祝い金　最大200万円 ・サークル支援　スポーツ　趣味 ・幹事育成塾　ぬま塾 【特別委員会委員】





各グループのまとめ（模造紙・付箋）

各グループの意見交換の様子

各グループの発表・まとめの様子

別紙４

Ｕターン等に関するアンケート調査報告

- 調査方法：市公式ＬＩＮＥによるアンケート調査
- 調査期間：令和５年８月２３日～９月１３日
- 調査対象：市公式ＬＩＥＮに登録している１０代～４０代の方
  （８月２１日時点　1,453 人　※生年を登録している人数）
- 回 答 率：52 人／1,453 人　3.58%

1. 性別

詳細

男性	22
女性	30
その他	0

2. お住まい（実際に住んでいるところ）

詳細

気仙沼市内	34
気仙沼市以外の県内	8
県外	10
その他	0

3. 年代

詳細

１０代	4
２０代	12
３０代	15
４０代	21
その他	0

4. 結婚

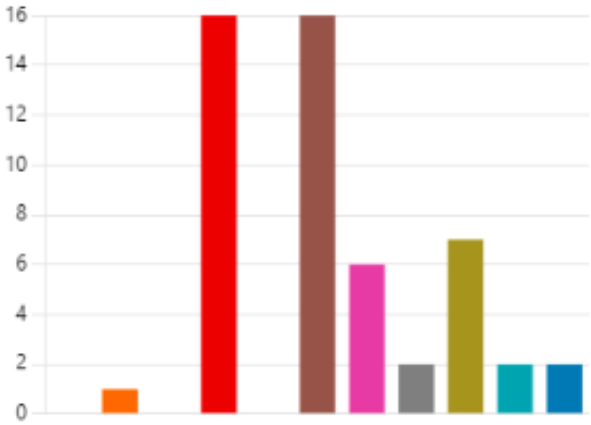
詳細

既婚	23
未婚	29
その他	0

5. 職業

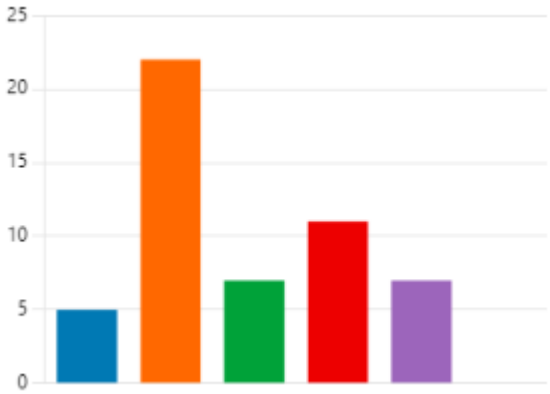
詳細

農林水産業	0
自営業（商工，サービス業）	1
その他の自営業	0
会社員，団体職員	16
会社役員，団体役員	0
公務員	16
学生	6
家事従事	2
アルバイト，パート	7
無職	2
その他	2



6. 気仙沼市とのかかわり

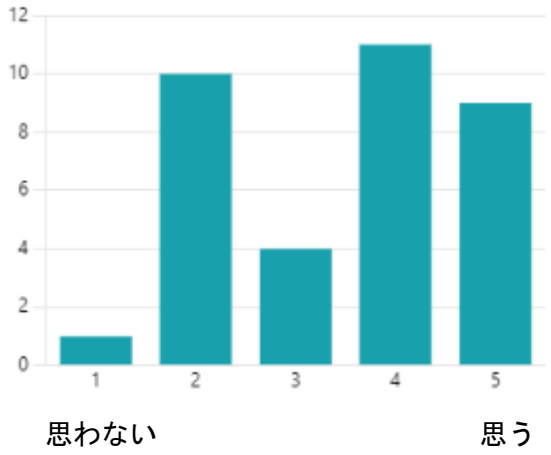
- ①気仙沼市内の出身で，市外に出ることなく，ずっと市内で暮らしている（問 7. へ進む） ５
- ②気仙沼市内の出身で，進学や就職などで市外に出たことはあるが，戻って暮らしている（問 7. へ進む） ２２
- ③気仙沼市外の出身で，市内で暮らしている（問 7. へ進む） ７
- ④気仙沼市内の出身で，市外で暮らしている（問 10. へ進む） １１
- ⑤気仙沼市外の出身で，市外で暮らしている（問 10. へ進む） ７
- その他　０



7. 問 6.で，市内で暮らしている（①，②，③）と答えた方にお聞きします。気仙沼市に住み続けたいと思いますか。その思いについて，以下の５段階から一つ選択してください。

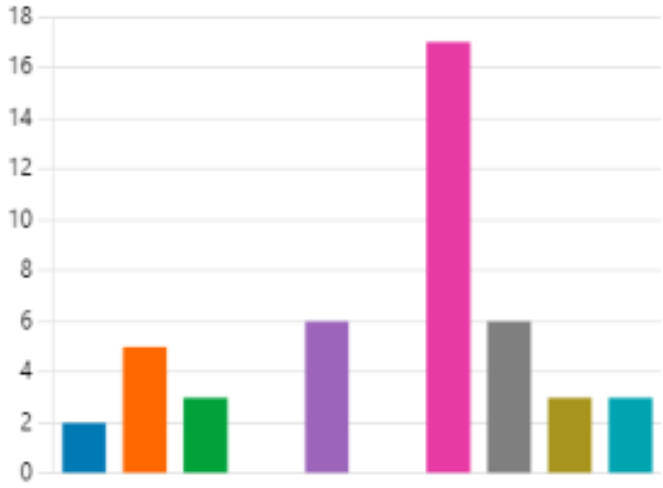
詳細　インサイト

3.49
平均評価



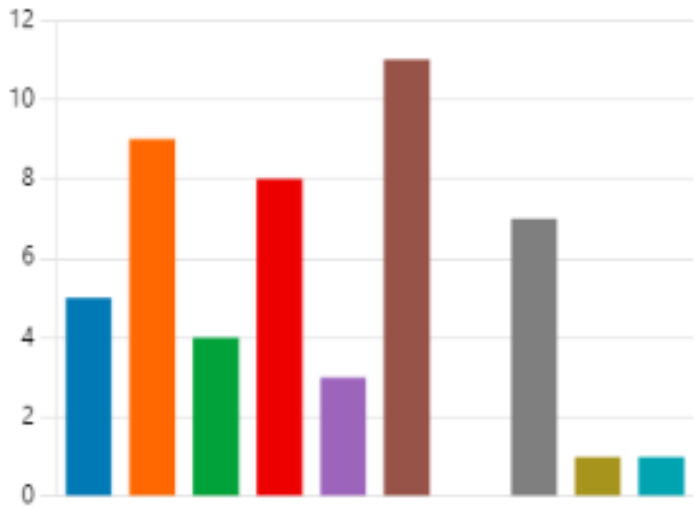
8. 問7.で，５段階のうち，４，５と答えた方にお聞きします。それはどのような所に感じますか。（複数回答可）（問13.へ進む）

- 子育て・教育環境がよい　２
- 住環境がよい　５
- 自分に合う仕事がある　３
- 医療・福祉が充実している　０
- 産業や観光など，まちの魅力がある　６
- 買い物や公共交通など，日常生活が便利である　０
- 豊かな自然があり，食べ物がおいしい　１７
- 人間関係が温かい　６
- なんとなく　３
- その他　３



9. 問7.で，５段階のうち，１，２と答えた方にお聞きします。それはどのような所に感じますか。（複数回答可）（問13.へ進む）

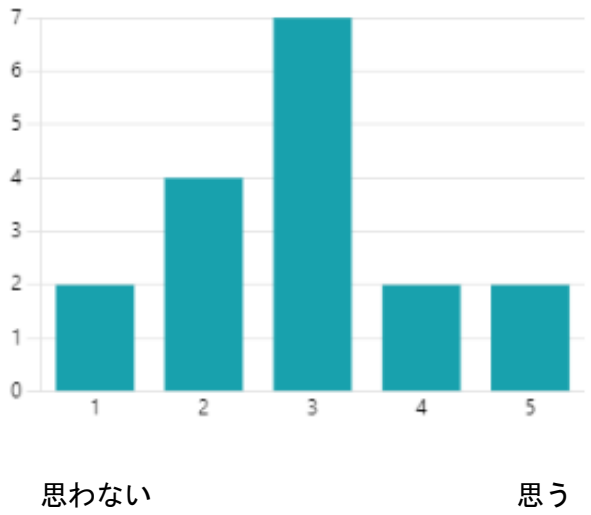
- 子育て・教育環境がよくない　５
- 住環境がよくない　９
- 自分に合う仕事がない　４
- 医療・福祉が充実していない　８
- 産業や観光など，まちの魅力がない　３
- 買い物や公共交通など，日常生活が便利ではない　１１
- 豊かな自然がなく，食べ物がよくない　０
- 人間関係が難しい　７
- なんとなく　１
- その他　１



10. 問6.で市外で暮らしている（④，⑤）と答えた方にお聞きします。将来，気仙沼市に住みたいと思いますか。その思いについて，以下の５段階から一つ選択してください。

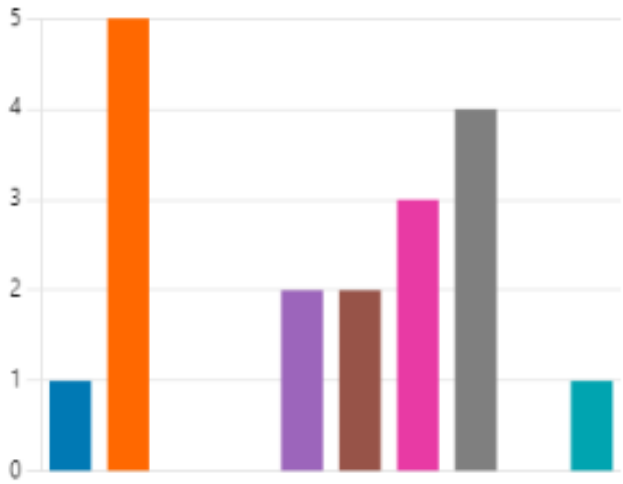
詳細　インサイト

2.88
平均評価



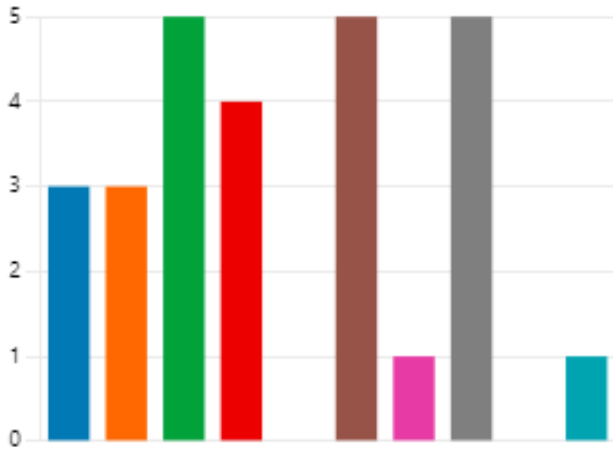
11. 問10.で，５段階のうち，４，５と答えた方にお聞きします。それはどのような所に感じますか。（複数回答可）（問13.へ進む）

- 子育て・教育環境がよい　1
- 住環境がよい　5
- 自分に合う仕事がある　0
- 医療・福祉が充実している　0
- 産業や観光など，まちの魅力がある　2
- 買い物や公共交通など，日常生活が便利である　2
- 豊かな自然があり，食べ物がおいしい　3
- 人間関係が温かい　4
- なんとなく　0
- その他　1



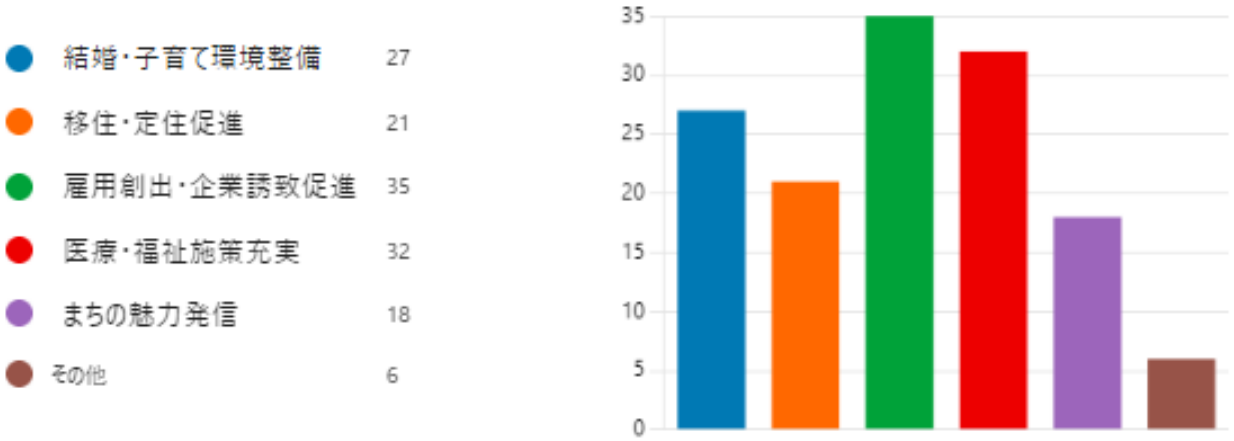
12. 問10で，５段階のうち，１，２と答えた方にお聞きします。それはどのような所に感じますか。（複数回答可）（問13.へ進む）

- 子育て・教育環境がよくない　3
- 住環境がよくない　3
- 自分に合う仕事がない　5
- 医療・福祉が充実していない　4
- 産業や観光など，まちの魅力がない　0
- 買い物や公共交通など，日常生活が便利ではない　5
- 豊かな自然がなく，食べ物がよくない　1
- 人間関係が難しい　5
- なんとなく　0
- その他　1



13. Uターン等に対応した施策として，重要だと思うことは何ですか。（複数回答可）

詳細



14. Uターン等に対応した具体的な施策について，お考えを自由にお書きください。（例：空き家の活用・住居支援の充実など）

主な回答内容（原文のまま掲載）

- 空き家、空き店舗、空き地の活用。
- 居住環境、雇用促進ご必要だと思います。
- 医職住が足ることが不可欠だと思います。空き家（復興公営住宅）の利活用，後継者不足に悩んでいる職の支援，見知らぬ土地でかかりつけ医がいないにも関わらず一見お断りの市立病院の対応の改善。
- 定住してもらうためには、魅力的な企業誘致が必要。ただ、企業誘致が良くても生活環境（子育て支援、交通環境、インフラ整備）が良くなければわざわざ気仙沼に住みたい、帰って来たいと言う人は少ないと思います。
- 遊ぶ施設を作った方がいい。
- 子育て世代の所得アップ。
- 市内出身者が気仙沼に戻ってくる際の費用を 1 部補助したり、優先して空き家を紹介してくれたりすると戻る時の不安要素である「家探し」が少し楽になると思う。
- 若者の安定した雇用先の確保と十分な賃金保証がなければ選ばれない。
- 市からの情報が届きづらい，わかる人にはわかる，わからない人には全くわからない。
- 水産業以外の産業の誘致、空いている農地の活用のための就農支援、結婚支援。
- 基本的に、不動産を所有する世帯かつ、2 世帯住宅を許容できる人しか U ターンできないので、実家前提のアプローチを若者にするのをやめる。大学卒程度の給料を改善する。空き家を市で改修して賃貸する（住みたい形は役所や大家がわかるわけないから、若者に任せる）。評価は第 3 者が行う。食が豊かであることを、全国の人が知ってないと、出身者は比較できない派遣社員の仕事を増やす。外国人労働者を増やす。気仙沼には生活ができる給与の仕事がないので求人を増やす。または賃金を増やす。
- 後継ぎがいない事業所の事業承継に地域おこし協力隊を活用している事例があるようです。気仙沼市にも後継者不足といった課題を持つ事業者は多いので、公募のような形で隊員を入れるか検討できるのでないでしょうか。

・派遣社員の仕事を増やす。外国人労働者を増やす。気仙沼には生活ができる給与の仕事がないので求人を増やす。または賃金を増やす。
・私自身の所感ですが、私は県外の製造メーカーに焼く 5 年勤めておりました。気仙沼の企業は大手企業と比較して給料及び休日取得数がとても少ないと思います。それに、一人暮らしをしようにもアパート家賃が値段が都会並みに高く、車がないと生活に支障をきたすため、車の維持費もかかりますので趣味や交際費を削らなければ生活できませんの。そのため、企業誘致に力を入れてもらい企業の増加に伴う定住者と競争性による収入増加と、難しいとは思いますが、市営住宅家賃の減額及び不動産及びアパート大家の家賃減額の要請をお願いしたいです。
・就職活動に関わる費用の補助。
・自分が学生だったときは、就職氷河期だったこともあり市内では市役所など公務員しか選択肢がないと感じていた。実際には市内にも魅力的な企業が沢山あり、働きがいもあるはずなので、各企業の発信が大事だと思う。
・空き家の活用。企業を誘致し、継続雇用を見込める環境。低賃金の見直し。
・仕事付きのお試し移住、どんな人でも生きやすいまちをつくること、生まれ育つ人にとって/移住する人にとってコモンズと呼べる場所があること。
・病院と福祉施設の充実。
・子育て施策を充実させて将来的な人口を増やすことが何より重要だと思いますし，子育てをしやすい自治体には人が戻ってくる，移住してくると思います。

別紙5　U ターン向けの政策事例等

■U ターン向けの政策事例

移住特典	弘前市 （青森県）	U ターン就職等支援金 50 万円	東京圏 UIJ ターン就職等支援金の対象とならない出身者（小学校から大学院まで1年以上在籍していた人）で，青森県外からの移住，40 歳未満などが条件。世帯移住で 30 万～50 万円を交付する
	津市 （三重県）	ふるさと就職新生活応援奨励金 5 万円	UIJ ターン就職者に，新生活を始める際の物品や転入費用の一部として 5 万円の就職祝金を支給。学校へ通うため津市へ転入した学生も対象
	大町市 （長野県）	おかえりなさい！ふるさと事業の商品券贈呈 3 万円	1 年以上市外に転出して戻った U ターン者（60 歳未満）に 3 万円分の地域商品券をプレゼント。I ターンには「ようこそ大町へ!移住奨励事業として 3 万円分プレゼント。就業，自治会加入が条件
住宅支援	上越市 （新潟県）	就労促進家賃補助金 月 1 万円	市外から転入した人，市内在住で初めて就職した人に，家賃を月 1 万円，1 年間補助する。医療福祉，建設業だと 2 万円。主たる事業所が市内にあることが条件。起業，就農でも月 2 万円補助
		移住定住応援住宅取得費補助金 最大 60 万円	市外から転入して住宅を取得する場合，新築で 40 万円，中古で 20 万円を補助。子育て世帯は 10 万円，中山間地で 10 万円の加算金がある。50 歳未満が対象
		空き家定住促進利活用補助 最大 135 万円	市外から移住して空き家を取得してリフォームする場合，50 万円（補助率 1/3）を補助する。子育て世帯で市の誘導重点区域内（市街地）だと 10 万円，下水道接続で 30 万円，県外からで最大 55 万円加算される
	佐渡市 （新潟県）	若者移住家賃補助金 月 2 万円	40 歳未満などを条件にした転入者に対して，家賃から住宅手当等を控除した額の 1/2，月 2 万円を上限に補助。令和 5 年度予算は 451 万円
奨学金返済支援		UI ターン者奨学金返還支援事業 年 30 万円	U ターンは年額 30 万円を上限に 20 年以内，I ターンは年 15 万円で 10 年以内を補助。U ターンは 45 歳未満，I ターンは 40 歳未満。令和 5 年度予算は 750 万円
	箕輪町 （長野県）	U･I ターン応援奨学金返還支援補助金 年 15 万円	40 歳未満で就職･起業した UI ターン者に，奨学金返還額に対して補助率 1/2，上限年額 15 万 3600 円を 5 年間交付。女性は 1 年間，U ターンはさらに 1 年間延長
	大館市 （秋田県）	奨学金返還助成制度 年 20 万円	年間返済額の 2/3 を対象に上限 20 万円を助成。制度に賛同する企業に就職すると，起業の支援で加算（1/3 以内）がある。助成期間は貸与年数（大学で 4 年間借りた場合は 4 年間）と同じ。令和 5 年度予算 700 万円

■気仙沼市のUターン関連支援メニュー

移住支援金 100 万円 ＋加算金	東京圏から移住して対象求人へ就業するなどの条件を満たすと，世帯移住で 100 万円（単身 60 万円）を支給。18 歳未満の家族 1 人につき 100 万円が加算される。令和 4 年度は単身 6 件，世帯 1 件の利用があった。政府は令和 6 年度以降は大学新卒者も対象に拡大する方針
介護マンパワー確保対策 保育士等人材確保対策 計 20 万円	介護・福祉施設，保育所等に就職した人に 10 万円（介護は無資格だと 5 万円），移住費用に 10 万円を助成。令和 4 年度は介護・福祉で 8 人の U ターン，9 人のJIターン，保育で 5 人の移住につながった
看護師等奨学金返還支援 年 20 万円	最大 5 年，年 20 万円を上限に補助 ※コロナ禍の緊急支援で市内出身の大学・専門学校生の貸与型奨学金支給人数は 347 人に 3 万円ずつ支給
保育士等奨学金返還支援 年 10 万円	最大 3 年，年間返済費用の 20 万円を上限に 1/2 を補助。令和 4 年度は 10 人（5 人は継続）が利用した
空き家リフォーム補助 50 万円	空き家バンクに登録してある物件を購入・賃貸した場合，対象経費の 1/2，最大 50 万円を補助する。令和 4 年度は所有者 2 人，購入・賃貸 6 人に交付
気仙沼ファンクラブ	令和 4 年度末の会員は 1 万 7，109 人。ファンクラブ通信は郵送が年 2 回，メール 11 回

■シェアハウス補助の事例

出雲市 （島根県）	空き家活用住宅等整備支援事業補助金	空き家を UI ターン者等が居住するシェアハウスに改修する者に対して，改修工事費を 700 万円（経費の 2/3 以内）まで補助する。条件は入居者 3 人以上，個室，賃貸。島根県立大学，看護専門学校向けの学生シェアハウスが整備されている
和歌山市	学生専用シェアハウス整備補助金	5 大学から半径 1km以内のまちなかを対象に，空き家をシェアハウスとする改修工事に上限 600 万円（個室 1 室あたり 200 万円）を補助。補助率は 2/3。低所得世帯を対象にしたセーフティネット住宅への登録が条件。家賃は 3 万円以下とする

※各自治体ホームページ等より抜粋

別紙6　提言のまとめに向けた施策リスト

※政策提言に関するプロジェクトチーム会議（令和5年11月24日）における検討資料

ステージ	ア. まちの魅力発信とコミュニティ	イ. 仕事と暮らし
A. 気仙沼を巣立つ前に 「ふるさとを大切にしたい」と思われるように	1. 親や教師が気仙沼の魅力を知らなければ「帰ってこないほうがいい」と伝えてしまうため，大人にも気仙沼の魅力を知ってもらうための工夫 2. 市広報誌は「市の情報を伝える役割」だけでなく「市の魅力を伝える機能」を強化する 3. 高校卒業までに気仙沼の名所を知ってもらうためのスタンプラリー 4. 高校卒業前に市長出前講座で気仙沼の魅力や課題を伝える 5. 子どもたちのまちづくりへの参画 6. 公民館等が同級生の幹事役とつながりを持つ仕組みをつくる 7. 子どもたちが地域と関わる機会の創出へ向けて調査（モデル地域化） 8. クルーカードへの全員加入を目指して高校卒業祝いポイント（3000円×500人で150万円）をプレゼント。できれば気仙沼市ふるさとLINEの登録も条件にする 9. 家や学校以外での居場所づくり 10. 子ども支援の充実（子どもの貧困・障害・不登校・ひとり親支援・居場所支援 等） 11. 若者支援の充実（ひきこもり・中間就労・居場所支援 等）	1. 気仙沼の住環境や気仙沼らしい暮らしについて中高生が考える機会を持つ 2. シェアハウスのお泊り体験 3. 働く大人の写真展（漁師カレンダー） 4. 気仙沼暮らしや仕事を楽しむ大人との接点づくりのため、子ども向けのぬま塾（大人が熱く語ることにふれる） 5. 職業選択のためのアルバイト（企業への協力や補助） 6. 船主協会の漁船員募集成果から学ぶためのセミナー（良いところだけでなく大変なことも正直に発信）
B. 気仙沼を離れてから 「帰ってきたい」という思いを後押しするために 「ふるさとに貢献したい」という思いを形にするために ※出身者6万人超。卒業、就職、結婚、子育て、転職・退職などのタイミングがチャンス	1. 市の魅力を伝えるためにメディアを積極的に活用すること（ふるさと納税はポータルサイト増やして成果） 2. 同級会や同窓会、歳祝いの支援（開催通知によって市から乾杯用地酒などの特産品差し入れ） 3. 気仙沼ファンクラブ（ゴールドカードの有料化と特典）とクルーカード、SNSを活用した情報発信。会員限定のふるさと納税返礼品を用意 4. 市だけで抱え込まずにそれぞれつながりを持つ市民に協力してもらうため、気仙沼市移住ガイドブックをリニューアル（既存の支援メニューも包括的に掲載）して、市民と共有すること 5. おかえりバスの運行など「おかえりシリーズ」の提案。みなとまつりなどイベントお手伝いのためのバスも 6. 保育所留学と学校魅力化（小学校入学前の親子をターゲットに） 7. 仙台へ気仙沼寮を確保して、気仙沼のことを語り合う場をつくる。ファンクラブ御用達の飲食店も 8. 正月・お盆等の帰省を推進する「おかえりポイント（期間限定）」 9. 市HPにて，UIJターンする方にとってメリットのある市の事業（補助金，空き家，リフォーム補助）など，検索しやすいようにする。HP画面の最初に表示する。 10. ユーチューブ，ティックトックの動画作成，インスタグラムでの自然の写真，食べ物の写真のアップ 11. グループラインをつくり，〇〇中の〇〇期生，名称「〇〇会」などつくり，交流の場をつくったりする 12. まちの魅力である自然，食べ物など，SNSでの活用 13. 離れていても地域に関わり続けることできる仕組みづくり	1. 市として家賃が高くなる理由を調査して市民と共有 2. 気仙沼でのインターン支援 3. UIJターン者向けのリフォーム補助金（実家版）と空き家改修補助の拡大 4. 日本一のシェアハウスのまちづくり 5. 長期居住者向けの減免または減税（固定資産税） 6. 公営住宅の活用（コミュニティ目的も） 7. 社員寮整備の補助 8. 創造的事業補助金の通年サイクル化 9. 家督以外が帰ってくるための課題の分析 10. 地域おこし協力隊（Uターン特化）の活用 11. 定住補助金の調査検証 12. リフォームした空き家を長期移住・定住者に安価で販売（都会では高額な住居を気仙沼だと安価で購入できる）。そのリフォームのアイデア自体をUIJターン者にしてもらう，建築系学校の生徒とかのアイデア。利便性を度外視した尖ったリフォーム物件を，話題性のため1件くらいつくる 13. 企業誘致，食品系よりも製造系（大手自動車メーカーの下請けなど）
C. 気仙沼に帰ってきてから 住み続けたいまちであるために	1. まち大学やぬま大によるコミュニティづくりの支援 2. 異業種交流の場と機会づくり 3. 市民からのアイデア公募（予算100万円） 4. 気仙沼暮らしが楽しくなるためのアイデアに特化したプロジェクト 5. おかえりの歓迎ムードづくり 6. 帰ってきてくれることがありがたいこと，おかえりいってらっしゃいのまち（誰に対しても）のブランド化 7. 女性支援の充実 8. 全ての世代にとって暮らしやすいまちを目指す	1. 日本一快適なテレワークの場所づくり 2. 副業のための市民人材センターづくり 3. 副業を認める機運づくり 4. 奨学金の返済補助の対象拡大 5. 児童手当（5.8億円）への独自加算 6. まちにアートがある環境づくり 7. テレワークのオフィス活用（大島公民館2階など）を安価で借りれることのアピールをネット上，SNS等でしていく 8. 草刈りを副業として成り立たせる労働団体の設立（月～金は普段の仕事，休みの土日は草刈り） 9. 女性のライフスタイルに応じた働きやすい職場環境の支援
D. 全般	1. 人口が3万人台になった場合の影響について、暮らしやコミュニティでもシミュレーションする（危機を直視した対応） 2. 若者回帰率（兵庫県豊岡市の事例）を指標の一つにする 3. 移住定住施策を議論できる場を常設する（会議体） 4. 気仙沼市内外の様々なコミュニティとつながれる支援・交流が持てる支援（イベント運営への参画・地域課題の解決への参画） 5. 気仙沼で出産できる環境を守る	